

2022

海外保健福祉事情・ 海外医療体験 活動報告書

AUSTRALIA オーストラリア

VIETNAM ベトナム

SINGAPORE シンガポール



国際医療福祉大学
INTERNATIONAL UNIVERSITY OF HEALTH AND WELFARE

■ 目 次 ■

1.ご挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
学長 鈴木 康裕	
2.グローバルな視点を備えた医療プロフェッショナルを目指して・・・・・・・・	3
赤坂心理・医療マネジメント学部 教務委員長 中田 光紀	
3.海外保健福祉事情 科目概要・・・・・・・・・・・・・・・・	4
東京赤坂キャンパス 科目担当責任者 岡村 世里奈	
4. 2022 年度海外研修健康相談センター紹介・・・・・・・・	9
5.オーストラリア冬季①（グリフィス大学）・・・・・・・・	10
6.オーストラリア冬季②（TAFE ゴールドコースト校）・・・・・・・・	22
7.ベトナム（ホーチミン医科薬科大学・国立チョーライ病院）・・・・・・・・	35
8.シンガポール（ナンヤンポリテクニク）・・・・・・・・	48

【2022 年度 海外保健福祉事情・海外医療体験活動報告書】

ご挨拶

国際医療福祉大学学長 鈴木 康裕

国際医療福祉大学は、1995年の開学時より医療福祉の総合大学として、科学・技術の先進化・専門化に対応できる高度な医療技術および知識をもった専門職の育成に努めてきました。本学の基本理念の一つに、「国際的感覚を備え、いかなる国の人々とも伸び伸びと協働できる真の国際人を育成する」という目標を掲げており、その一環として1997年度より『海外研修活動』を実施してきました。2022年度現在、参加者は5,719名を数え年々増加しています。

また、1999年度より『海外保健福祉事情』という単位認定科目（総合教育科目・社会科学系）として正式な教育カリキュラムとして位置づけています。

本研修は主として夏季・冬季休暇を利用し、海外の医療福祉機関において、現地スタッフの指導のもとに医療福祉の実態を学生のうちから早期に体験実習するものであり、また、語学を学び国際感覚を涵養し、コミュニケーションスキルを習得することを目的としています。すなわち人生における早期体験（Early exposure）の理念です。

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響から、2019年度冬季研修より海外渡航を中止せざるを得ない状況が続いていましたが、2022年度冬季研修より各部署の尽力によりオーストラリア・ベトナム・シンガポールの3か国への海外渡航・研修を再開する運びとなりました。現地の状況を鑑み、病院や福祉施設への立ち入りが制限されるなどコロナ禍以前のプログラムと同等とはいきませんでした。学生にとってはかけがえのない経験が得られた研修になったことと思います。

研修を経験した学生は、コミュニケーション能力や語学力が明らかに進歩し、人間的にも成長したその姿は自信に満ちています。学生時の海外交流は、その成果から見ても長い人生にとって大きな財産になると考えられます。

研修の準備は4月より開始し、日本の医療福祉における制度、海外における危機管理、異文化交流、訪問国の文化・歴史・地理などについて事前に学習をし、研修期間中にその成果を効率よく活用し得るよう綿密なスケジュールを組んでいます。

だからこそ、短期間の研修であってもスタッフと学生が一体となって、現地の医療事情を学び、現地の人々との交流を介して、医療福祉における重要な慈恵の心、すなわち本学の建学の理念『共に生きる社会』の実現を実体験できると確信しています。

今後、本研修は医療福祉の専門職をめざす学生にとって、これからの人生の心の糧になることを期待しています。本研修を通して、学生一人ひとりがこのグローバル化時代に求められる国際感覚を身につけていただければ、研修目的を十分に達成したことになり、企画・実行に携わった教職員にとっても望外の喜びと感ずるところです。

最後に、本研修にご協力いただきました皆様の多大なるご努力に対し御礼を申し上げ、2022年度『海外保健福祉事情・海外医療体験活動報告書』の挨拶とさせていただきます。

グローバルな視点を備えた医療プロフェッショナルを目指して

「海外保健福祉事情 2022」

国際医療福祉大学赤坂心理・医療マネジメント学部
教務委員長 中田光紀

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) による災禍もまだまだ予断を許さない状況ではありますが、2023 年の半ばになりようやく落ち着きを取り戻し始めた兆しが見え始めました。こうした中で海外保健福祉事情が本格的に再始動となりました。この研修への参加を待ちわびた学生も多くいるのではないかと思います。

さて、コロナ禍によって我々人類は多くの混乱に陥りました。この教訓によって、改めて感染症の恐ろしさやその影響力ならびに公衆衛生の重要性を再認識することになりました。こうした状況を踏まえてのこの研修への参加は、例年とは少し異なった意識が必要かもしれません。例えば、自分が参加を予定している国と現在の日本の COVID-19 の流行の状況はどのように異なっているのでしょうか、その国では感染から身を守るためにはどのような対策をしているのでしょうか、また、その国で万が一自分が感染した場合はどのような行動を起こせばよいのか等を十分に考えておく必要があります。こうした状況をまず把握することこそが、グローバルな視点を備えた医療プロフェッショナルになるための第一歩となります。

続いて、現地に行ったときに、もしも自分がその国の医療プロフェッショナルとして活躍することになった場合を想像してみてください。つまり、学生として参加すると同時に自分が医療のプロフェッショナルとしてその国に貢献するというイメージです。もしそのような状況になったら自分はどういう行動を起こすのでしょうか、それに備えてこれから何を学ぶべきであろうかという視点です。そう遠くない将来に多くの日本人の医療プロフェッショナルが海外で活躍することは想像に難くないからです。

今度は逆に、自分が外国人へその人の母国語で対応を迫られることを想像してみてください。旅行で日本に一時的に滞在する人や日本にすでに長年居住している人でも、文化や考え方や慣習などが大きく異なります。日本での常識が海外では非常識、またその逆も然りです。そうした時にこそ、この研修に参加した真の意味が問われることとなります。

最後に、皆さんにはこの研修を思う存分楽しんでいただきたいと思います。皆さんが本当に良い研修だったと思えるよう、教職員一同サポートに努めたいと思います。この海外研修がきっかけとなり、自己研鑽し続け、本学の基本理念である「国際性をめざした大学」の下で学んだ多様な価値観を受容できる医療プロフェッショナルとして、社会貢献できる人材に育っていくものと信じております。

「海外保健福祉事情」科目概要

国際医療福祉大学赤坂・医療福祉マネジメント学部
「海外保健福祉事情」科目担当責任者 岡村 世里奈

総合教育・社会科学系の「海外保健福祉事情」（2単位）は、海外の医療・福祉・教育機関を訪問して、その国の医療福祉事情や文化、習慣等について学ぶとともに現地の人々と交流することによって、国際的視野を広げることを目的とした科目となります。キャンパスによって必須・選択の扱いは異なりますが、すべてのキャンパスにおいて開講されています。

この海外保健福祉事情に関しては、過去2年間（2020年、2021年）は、新型コロナウイルス感染症の国際的な流行に伴い現地への訪問は中止され、現地の医療・福祉・教育機関におけるオンライン研修やeラーニング学習に留まっていました。しかしながら、2022年度冬季からは一部の国や地域で現地への訪問が再開し、2022年度には全キャンパス合わせて78人の学生が、オーストラリア、ベトナム、シンガポールの3か国での研修に参加しました。なお、現地での研修に参加しなかった学生は、各キャンパスで用意された代替プログラムに参加しています。

本科目の統括は各キャンパスの科目責任者及び教務担当者であり、海外研修の企画・日程調整・連絡などについては、各キャンパスにある国際交流センター・国際室・国際担当者・教務課等の関連部門が連携しながら運営に当たり、さらに履修学生の海外渡航手続き全般の諸事務も担当しました。事前講義等日程表、海外研修日程、研修引率教員名、履修学生数、評価方法、帰国後アンケート、海外研修活動報告会、IUHW広報誌原稿提出および活動報告書作成等については下記の通りです。

1. 2022年度「海外保健福祉事情」の主な日程表

<大田原キャンパス>

日付	時間	内容
10月5日（水）<第1回目>	6限	事前講義 オリエンテーション
12月7日（水）<第2回目>	6限	事前講義
1月11日（水）<第3回目>	5限	事前講義
【VOD（1）】	各自視聴	医療保健福祉事情（日本と世界）
【VOD（2）】	各自視聴	二国間援助、多国間支援（JICA、ODAなど）
【VOD（3）】	各自視聴	海外における健康管理（感染症と予防法）
【VOD（4）】	各自視聴	海外から見た日本人・日本文化
【VOD（5）】	各自視聴	海外における危機管理（事故・事件、テロや災害の現状と対処法）
1月12日（木）<第4回目>	昼休み	海外研修・渡航について(冬季事前説明会)
1月24日（火）	1限	冬季前半引率教員説明会

2月8日(水)	2限	冬季後半引率教員説明会
4月3日(月)	2限	冬季海外研修報告会

<小田原キャンパス>

日付	時間	内容
3月18日(金)	5限	科目概要説明・オリエンテーション
10月12日(水) ～12月23日(金)	各自視聴	海外における危機管理(事故・事件・テロや災害の現状と対処法) 二国間援助・多国間支援(JICA、ODAなど) 海外における健康管理(感染症と予防法) 医療保険福祉事情(日本と世界) 英語で紹介しよう ベトナムの医療福祉事情 中国の医療福祉事情 モンゴルの医療福祉事情 インドネシアの医療福祉事情 ミャンマーの医療福祉事情 バングラデシュの医療福祉事情 エジプトの医療福祉事情
1月12日(月)	昼休み	海外研修渡航前説明会
2月2日(木)	11:00～	ベトナム研修スケジュール読み合せ
4月6日(木)	5限	冬季研修体験報告会

<大川キャンパス>

日付	時間	内容
4月11日(月) <第1回目>	5限	オリエンテーション
18日(月) <第2回目>	5限	海外における危機管理
25日(月) <第3回目>	5限	国際医療福祉関連の文献の調べ方、参考文献の書き方
5月2日(月) <第4回目>	5限	外国語コミュニケーション能力の習得と学習
9日(月) <第5回目>	3限	国際協力について① 日本の途上国支援の枠組みと中国での事例

16日(月) <第6回目>	5限	国際協力について② 国際貢献のためのキャリアプラン～国際医療福祉大学 を卒業して海外青年協力隊で活動するためには～
23日(月) <第7回目>	5限	多様性を考えてみる
30日(月) <第8回目>	5限	海外の感染症と検疫病務および渡航医学
6月13日(月) <第1回目>	5限	研修先別事前ワーク①
20日(月) <第2回目>	5限	研修先別事前ワーク②
27日(月) <第3回目>	5限	研修先別事前ワーク③
7月4日(月) <第4回目>	昼休み	研修先別事前ワーク④
9月24日(土)	2限	海外研修成果報告会

※その他履修科目：実用外国語(実用英会話/中国語会話/韓国語会話)、国際医療福祉論 (VOD)

<成田キャンパス>

日付	時間	内容
4月8日(金) <第1回目>	5限	オリエンテーション (科目構成と概要/研修までの 手続きとスケジュール)
15日(金) <第2回目>	5限	海外における危機管理 (事故・事件、テロや災害の現状と対処法)
22日(金) <第3回目>	5限	二国間援助、多国間支援 (JICA、ODA など)
5月13日(金) <第4回目>	5限	海外における健康管理 (感染症と予防法)
20日(金) <第5回目>	5限	医療保健福祉事情 (日本と世界)
27日(金) <第6回目>	5限	英語で紹介しよう IUHW
28日(土) <第7回目>	5限	各国の医療福祉事情① (ベトナム)
6月3日(金) <第8回目>	5限	各国の医療福祉事情② (中国)
10日(金) <第9回目>	5限	各国の医療福祉事情③ (モンゴル)
17日(金) <第10回目>	5限	各国の医療福祉事情④ (インドネシア)
24日(金) <第11回目>	5限	各国の医療福祉事情⑤ (ミャンマー)
7月1日(金) <第12回目>	5限	各国の医療福祉事情⑥ (バングラデシュ)
8日(金) <第13回目>	5限	各国の医療福祉事情⑦ (エジプト)
15日(金) <第14回目>	5限	特別講義「新型コロナウイルスについて」

その他履修科目：実用外国語(実用英会話/中国語会話/韓国語会話)、国際医療福祉論 (VOD)

<東京赤坂キャンパス>

日付	時間	内容
4月13日(水)	3限	オリエンテーション
【VOD(1)】	各自視聴	英語で紹介しよう IUHW
(VOD(2)】	各自視聴	医療保健福祉事情
【VOD(3)】	各自視聴	海外における健康管理について
【VOD(4)】	各自視聴	国際保健(二国間援助・多国間援助)について
【VOD(5)】	各自視聴	海外における危機管理について
7月30日(土)	3限	演習① 国際比較データで見る日本の医療
7月30日(土)	4限	演習② 日本の医療提供体制の特徴について考えてみよう。
8月6日(土)	3限	演習③ 日本の医療保障制度の特徴について考えてみよう1
8月6日(土)	4限	演習④ 日本の医療保障制度の特徴について考えてみよう2
11月24日(木)	昼休み	冬季海外研修・渡航について(冬季事前説明会)
12月26日(月)	午前中	グリフィス研修スケジュール読合せ
2023年2月3日(金)	午前中	NYP研修スケジュール読合せ
2023年4月18日(火)	昼休み	海外研修事後報告

2. 海外研修日程・引率教員名・履修学生数

国名	時期	引率数	学科	氏名	職位	性別	C	学生数	学科別内訳	
オーストラリア グリフィス大学	2023年2月2日(木)～2月11日(土)									
	冬	2	成田	MT	片山 博徳	准教授	男	大田原	2	NS1, PS1 女2
			東京 事務所	国際部	雨宮 秀行	課長	男	成田	16	NS8, PT6, OT1, MT1 男2/女14
								赤坂	4	PSY1, HM3 男1/女3
	合計	22	男(3) 女(19)							
オーストラリア Tafeゴールドコースト	2023年2月22日(水)～3月4日(土)									
	冬	2	成田	RT	水野 直子	講師	女	大田原	3	NS3 女3
				PT	河野 健一	准教授	男	成田	23	NS7, OT2, ST2, RT5, MT7 男7/女16
									福岡	1
	合計	27	男(7) 女(20)							
ベトナム ホーチミン	2023年2月24日(金)～3月5日(日)									
	冬	2	大田原	SHM	加藤 尚子	教授	女	大田原	1	SHM1 女1
			成田	OT	石井 清志	講師	男	成田	11	NS5, PT1, OT1, ST2, MT2 男3/女8
								小田原	2	NS2 女2
	合計	14	男(3) 女(11)							
シンガポール NYP	2023年2月28日(火)～3月5日(日) (※日本到着3月6日(月)朝)									
	冬	2	成田	PT	牧原 由紀子	准教授	女	大田原	4	PT1, OT2, SHM1 女4
				PT	鶴澤 寛伸	助教	男	成田	4	NS2, ST2 女4
								赤坂	3	PSY2, HM1 女3
								福岡	4	PT3, OT1 男1/女3
合計	15	男(1) 女(14)								

3. 評価方法

各キャンパスの授業計画（シラバス）で設定された成績評価方法による。

4. 帰国後アンケート

全キャンパスで統一したアンケート項目を、UNIVERSAL PASSPORT のアンケートで回答

5. 報告会および大学祭での発表・展示

各キャンパスにおいて実施

6. IUHW 広報誌（4 月発行予定）の原稿提出

【記事数】各研修国の引率教員、参加学生各 1 名が作成（学生は引率教員が推薦する）

【字数】200 字以内／記事（「である調」で書く、題名はつけない）

【写真】1 枚／研修国（※キャプションをつける）

【提出期限】2023 年 3 月 17 日（金）

【提出先】国際室（otw-kaigaikenshu@iuhw.ac.jp）

【提出方法】電子データ（両方ともワープロソフト A4 サイズ）

7. 活動報告書原稿作成

(1) 【内容】①～⑬の項目ごとに記載

①表紙（集合写真・研修国名・国旗） ②参加学生名簿 ③研修の目的 ④研修スケジュール
⑤研修国基本情報 ⑥研修地の紹介 ⑦関連施設紹介 ⑧実習・研修(時系列) ⑨特別講義
⑩観光 ⑪文化交流(TOMODACHI HOUR、学生交流) ⑫お世話になった人々 ⑬研修まとめ(引率
教職員の感想含む)

(2) 【ページ数】①～⑬の項目ごとに各 1 枚程度で合計 10～12 ページ以内。「である」調で書く。

(3) 【文字数・フォント】余白を【やや狭く】に設定 47 文字×40 行／ページ

本文：10.5p タイトル：12p MS 明朝

(4) 【写真】使用枚数：1 ページ 2・3 枚程度以内（必ずキャプションを付けること）

(5) 【提出期限】2023 年 4 月 4 日（火）

編集責任者（各キャンパス リーダー）が引率教員に提出、内容のチェックを依頼

2023 年 4 月 11 日（火）

引率教員チェック済みの原稿を取りまとめの小田原キャンパスに

電子データ（ワープロソフト A4 サイズ、①～⑬を 1 ファイルにまとめたもの）で提出

(6) 【提出先】小田原キャンパス国際係（od-kokusai@iuhw.ac.jp）

2022年度『海外保健福祉事情』 海外研修健康相談センター医師紹介



成田キャンパス
医学部教授
吉田 素文

私達、海外研修健康相談センターの医師は、研修中に体調を崩した学生、あるいは怪我をした学生(例年13~15人に1人くらいですから他人事ではありません)に対応する引率の先生方から相談を受けています。海外研修の前には、健康管理の授業を担当したり、持病や既往症のある学生の皆さんには、安心して研修に行けるよう、面談を行ったりしています。備えあれば憂いなしです。実りある海外研修のために、体調を維持するためのコツを身に付けましょう。

2022年度 海外保健福祉事情 海外研修・活動報告書

オーストラリア グリフィス大学



①参加学生名簿

参加学生名簿

Otawara campus

1. TANIGUCHI Shiori (NS) , 2. SATO Ami (PS)

Akasaka campus

3. KUBOTA Tetsuro (HS) , 4. HARA Chihiro (HS) , 5. MINAGAWA Otoha (HS) , 6. ARAYAMA Mizuki (PSY)

Narita campus

7. FUJISAKI Yui (PT)、8. HIGASHIDE Yuna (NS)、9. INADA Ayaka (NS)、10. MAEDA Chiaki (NS)、
11. MUROMAE Naoki (PT)、12. OGAWA Shiori (PT)、13. SHINOHARA Masaki (OT)、14. FUKUTE Ayano (NS)、
15. HATAE Honami (NS)、16. INAMURA Nodoka (NS)、17. ISHII Akiha (NS)、18. MITA Marisa (NS)、
19. MORIIZUMI Chihiro, (PT) 20. ONO Kotona (PT)、21. SUDO Kasumi (PT)、22. TSUNODA Hikaru (MT)

2 2 people

②研修の目的

「国際的センスを備え、いかなる国の人々とも伸び伸びと協働できる真の国際人を育成すること」
を具現化するもの

海外の医療福祉事情について学ぶこと

研修先の文化や習慣について学び、研修先の人々と交流すること

③研修スケジュール

Date	Morning Activity 9:00am~12:30pm	Afternoon Activity 1:30~3:00pm
Friday, 3 February 2023	Arrive on GU Gold Coast Campus and meet homestay families	
Saturday, 4 February 2023	Currumbin Wildlife Sanctuary	
Sunday, 5 February 2023	Free day	
Monday, 6 February 2023	Welcome/program orientation with teacher	Campus tour with GU students
Tuesday, 7 February 2023	Specialized Medical English Class	GUPH Tour - class A (Free afternoon - class B)
Wednesday, 8 February 2023	Specialized Medical English Class	GUPH Tour - class B (Free afternoon - class A)
Thursday, 9 February 2023	Specialized Medical English Class	Lecture - Australian Health Care System, followed by GU Nursing lab tour

Friday, 10 February 2023	Specialized Medical English Class & Cultural presentation by IUHW students	Certificate Presentation and Farewell Lunch
Saturday, 11 February 2023	Meet on campus for departure	

④研修国基本情報 Australia

- ・国名:オーストラリア連邦
- ・人口:約 2,313 万人
- ・首都:キャンベラ
- ・宗教:キリスト教 他
- ・公用語:英語
- ・通貨:オーストラリアドル
(1 オーストラリアドル≒約 92.11 円)※2023/02/14 現在
- ・電圧:240/250V 50Hzk
※240V までの電気製品はそのまま利用可能
- ・プラグ:コンセントの形状はO型
- ・キャッシュレス社会
- ・交通カードに go card というものがある。



〈ゴールドコースト〉

オーストラリアの中でもゴールドコーストは世界中から毎年人が集まる人気の観光スポットとして、またサーフィンのメッカとしても有名。

治安も非常に良く、美しい海や熱帯雨林などの自然と都市が調和した亜熱帯性気候のリゾート地。

年間の平均気温は 24 度、晴天日は 300 日もあってサーフィンやボディボードなどを楽しむことができるゴールドコーストは、海が大好きな方にはぴったりの町。

また、町のすぐ外には広大な自然が広がっている。学校が終わった後に友達と真っ白な砂浜が長く続くビーチでビーチウォークを楽しんだり、森へピクニックに行ったり、海辺で BBQ パーティーをしたり、スポーツをしたりと多種多様なアクティビティがゴールドコーストにはある。ショッピング施設が充実し、DREAMWORLD 等のテーマパークなどの観光施設も充実していて、長期滞在でも飽きることがない。

- ・人口:67 万人
- ・位置:クイーンズランド州の南東部
- ・時差:日本+1 時間(サマータイムなし)
- ・平均気温:15.0° C~25.0° C(日本と季節が逆)
- ・飛行機:直行便あり(カンタス航空)

⑤研修地の紹介

1. Currumbin Wildlife Sanctuary

カランビン野生動物園には、コアラやカンガルーなどの動物たちが野生に近い形で飼育されている。その広さは東京ドーム約6個分で、オーストラリア固有の動物たちとも直接触れ合える体験ができる。



コアラを抱っこができる

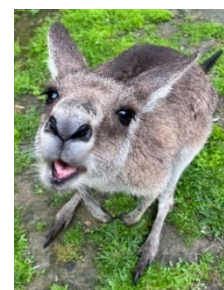
オーストラリアは、州によってコアラの抱っこができるところと禁止されているところがある。

カランビン野生動物園のあるクイーンズランド州は、コアラを抱っこが可能な州のひとつ。



カンガルーに触ることができる

カンガルーといえば、コアラと並んでオーストラリアの代名詞的な存在。日本では動物園で遠目からしか見ることができないが、カランビン野生動物園では放し飼いにしているカンガルーと直接触れ合うことができる。

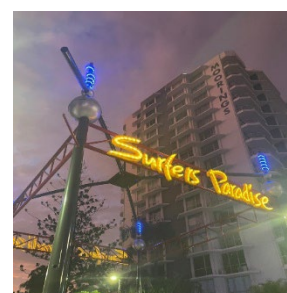


かわいい鳥の餌付け体験

カランビン野生動物園の前身である「カランビン・バード・サンクチュアリ」は、お花農園を荒らすロリキート(七色インコ)の目を逸らそうとして餌付けを始めたことがきっかけとなり、1947年に開園した施設だった。この時から、午前8時と午後4時の1日2回ある餌の時間になると、どこからともなく野生のロリキートが飛んできて、ゲストを楽しませてくれるようになった。このロリキートの餌付けは、園内を訪れる観光客も無料で体験することができる。ロリキートは人によく慣れており、頭の上や肩に乗ったり、手から餌を食べてくれたりする。色鮮やかなロリキートは、間近で見るととってもキュートである。毎日ショー&体験コーナーがある。

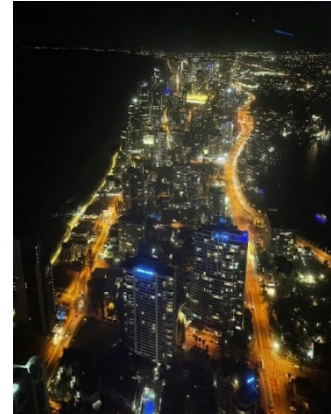
2. Surfers Paradise

サーファーズパラダイスは、クイーンズランド州の東南エリアのサウス・イースト・クイーンズランド・ゴールドコーストにある公道コースだ。ビーチラジオから音楽やおしゃべりが流れ続けており、ライフセーバーに監視されて安心して海水浴をする事が出来る。ビーチバレーを楽しんでいる人や、カイトを飛ばしている人も居る。他にもサーフィンをしたり、フリスビーや、日光浴などをしたりと楽しめる。沢山のレストランやカフェが立ち並んでいるし、ノースサイドにあるスパに行けば、サーフィンや泳いで焼けてしまった肌を癒す事も出来る。海上アクティビティも体験できるベル・アベニューもある。



3. Sky Point

スカイポイント展望台は、ゴールドコーストで最も高いQ1ビルの77階、78階部分にある。展望台の高さは地上230mの高さを誇り、世界でも有数の高速エレベーターが、わずか43秒の速さで乗客を展望台へ連れていく。展望台からはサーファーズパラダイスの海岸線、ゴールドコーストの街並みや世界遺産のヒンターランドの眺望が360°のパノラマで目の前に広がる。オーストラリア唯一のビーチにある展望台で77階の展望台からゴールドコーストビーチを一望できる。



4. MOVIE WORLD

ゴールドコーストの3大テーマパークの一つで、ワーナーブラザーズの映画をベースにしたテーマパーク。

そのことから、正式名称も「ワーナーブラザーズムービーワールド」である。昔は映画スタジオの見学ツアー的なものや映画「ポリスアカデミー」を題材にしたスタントショーなど、たしかに「ムービー」要素もあったようだ。だが、今は「絶叫マシン系」がメインのテーマパークに生まれ変わった。さらに、有名キャラとの記念撮影やパレードなどもある



5. SEA WORLD

イルカやアシカのショー、オーストラリア近海の海にいる魚、サメなどの展示、絶叫マシンに水がかかるジェットコースター、ウォーターパークなどたくさんのアトラクションがシーワールドには揃っている。園内の売店や飲食店でもシーワールドでしか買えないものがたくさんある。イルカ、アザラシ、ペンギン、ホッキョクグマ、エイなどを実際に触ることができる。シーワールドには、水に濡れる乗り物やジェットコースター、新しくできた絶叫マシンもある。



6. Miami Marketta

オーストラリアの魅力的な点の一つである多国籍なところが集まっている場所で、本場に近い多国籍料理を食べることができる。日本のお祭りのような屋台が集まっていて、大人向けのバーでお酒を、ライブミュージックに耳をすましながら、食事をするといった感じの時間におわれることなく、のんびり過ごす場所となっている。マイアミマーケットタはゴールドコースト中心街より南へ、トラム終着駅ブロードビーチサウスより更にやや南にあるマイアミというサバーブにある。フードマーケットは入場料を取られるところもあるが、マイアミマーケットタは無料。また、小規模のマーケットなので中で迷うこともなく、周りやすい点がいい。



7. Pacific Fair

ゴールドコーストで shopping といえばこのような場所で、オーストラリア 2 大デパートの DAVID JONES と MYER を筆頭に、世界ブランドのファッション、雑貨、家庭用品、コンピューター、スポーツ、サービス、そして多数の飲食店など、合計 400 店舗以上のお店が営業している。開放的なデザインと空間設計が海の街ゴールドコーストにとってもフィットしている。無料シャトルバスは、北方面はサーファーズパラダイス、ブロードビーチからの便があり、南方面はノビービーチ、マーメイドビーチからの便がある。ブランド品から K マートのような格安なものまでそろっているため、一日ゆっくりウィンドーショッピングしても飽きない広さである。



(表紙～5 responsible person : Taniguchi Shiori)

⑥ 関連施設紹介

グリフィス大学には様々な関連施設が存在する。本研修ではその中でも、看護学科生が講義の際に使用するナースング・ラボと、隣接するゴールドコースト・プライベート病院を見学した。

ナースング・ラボは、グリフィス大学ゴールドコーストキャンパス内に位置し、看護学部の講義において日常支援的な看護と医療支援的な看護を実践的に実習する場所である。グリフィス大学には看護実習で用いる実習モデルが多数配備されており、それぞれの実習モデルも日本の物に比べて精巧に作られていて、患者の声を再現した音声流れるなど、様々な状況を想定した実習を行なうことができた。また、オース

トリアの看護師は日本の看護師と違い、診断や薬の処方を行うことができる資格も存在しているが、グリフィス大学のナースング・ラボには、実際の薬品なども完備されており、様々な資格の実習に対応している。学生たちは日本のナースング・ラボとの差異に驚いた様子であった。

ゴールドコースト・プライベート病院は、グリフィス大学とグリフィス大学病院の隣に位置し、主に富裕層に対して医療を提供する、営利団体が経営する私立病院である。病床数は336床、21の手術室を備え、産婦人科や肥満外来を強みとしている。学生らはまず病院の概要についての説明を受けた後、病室やリハビリテーション科、カルテ保管室、ICUなどの病院内の各施設を見学した。

産婦人科ではホテルさながらの病室やアメニティ、サービスを受けることができ、これらは日本には存在しない営利病院ならではの特徴である。また、リハビリテーション科では入院患者専用のリハビリ室を見学することができ、歩行訓練をシームレスに行えるよう中庭に直接接続した構造や、オーストラリアの生活様式に対応したADL室などを見ることができた。

ゴールドコースト・プライベート病院の各診療科は、それぞれがブースで仕切られ独立しており、別々のクリニックが並んでいるような状況で、日本の病院とは全く違う様子であった。また、院内に存在する放射線科や薬剤部は、病院と全く違う経営母体が運営していることも大きな特徴である。経営部門はデータをを用いて経営状態を分析する専門の部署が存在するなど、営利団体が運営する病院として、経営にも力が注がれている様子であった。施設見学後は質疑応答時間が設けられ、学生らは各部署の人員配置についてや、オーストラリアで専門職種の資格を取得するためのプロセスなどについて質問し、それぞれ専攻する学部の視点から考察を行っていた。

今回これらの関連施設を見学したことによって、オーストラリアの医療提供体制や医療保障制度について実地的見地から分析をすることができた。(担当：久保田 哲郎)



左：ナースング・ラボで看護実習モデルを体験する学生

右：ゴールドコースト・プライベート病院のリハビリテーション室の様子

⑦実習・研修(時系列)

4日目から授業が始まり、2つのクラスに分かれ、オリエンテーションが終わると、ペアを組んで自己紹介をした。英語の授業では、基礎的な文法から、ホームステイ先で使える実用的な日常会話を学んだ。医療に関する読解問題や、ペアでオペレーター役と患者役になり、緊急時の自分の症状の説明と、聞き手になり対処法を伝えるペアワークなどを行った。これにより、積極的に意見交換や情報伝達を行い、実践的な英語を学ぶことができた。

5日目と6日目の午後に、英語の授業のクラス別で、日付をずらして病院見学を行った。

見学させていただいたのは、Gold Coast Private Hospital である。この病院はサウスポートに位置し、クイーンズランド州で唯一の私立病院である。見学では、初めに病院の概要を説明していただき、その後院内を見学した。最初に見たリハビリ室は一階にあり、部屋からそのまま中庭に出て歩行訓練などができるようになっていた。

産婦人科では、ベッドが他とは異なり、通常より横幅が広く妊婦のためにサイズを大きくしていた。また、出産間近になると、父親も一緒に入院することができる。さらに、水中出産をすることもでき、その場合は部屋に浴槽を設置し、そこで出産する。そして、病院の壁には黄色と赤色のボタンがあり、黄色のボタンは平時にスタッフを呼ぶために使い、赤色のボタンはコードブルーの時に押すボタンである。また、ショッピングセンターにあるマップのように使える、診療科マップが入口付近に設置されていた。院内を利用するにあたって、患者が過ごしやすくスタッフの業務を効率的にするための、多種多様な工夫を感じた。見学中は、案内の方の英語を全て翻訳してくださっていたので、最後の質問の時間も病院内部の様々なお話を拝聴することができ、とても有意義な見学となった。

7日目の午後は、オーストラリアのヘルスケアシステムについて説明を受けた後、看護学科の教室を見学した。授業で実際に使っているマネキンを触らせていただき、タブレットでマネキンの心拍数を変えたり、声を出させたりすることができた。それを活用して脈を測り、看護学科の学生は血圧測定などもしていた。マネキンはそれぞれにカルテがあり、疾患も症状も様々で細かく記録できるようになっていた。

英語の授業では、最終日にプレゼンテーションを行った。内容は、日本とオーストラリアの違いについてである。その異なる部分を二つ各々で考え一人ずつ発表を行った。服装、食事、コロナへの対処、交通機関、店の営業時間、ライフスタイルなど1人1人様々な観点から思考し、無事プレゼンテーションを終え、それぞれのクラスで先生から賞状を頂いた。

今回の研修は、短期間ではあったが、日本から出ることで視野が広がったのではないかと考える。これを機に、自身を見つめなおし、将来を見据える良い経験になったと感じた。(担当:原 千優)

グリフィス大学での集合写真



看護学科の教室



⑧特別講義

『Australian Health Care System』

この講義を受け、オーストラリアの医療提供体制について学ぶことができた。印象的なものは、地域によって医療提供を分割していることである。中心都市から離れた地域への医療は、ヘリコプターを用いて提供していると学んだ。またコロナ禍の影響が大きいことを実感した。例えば、患者だけではなく医療従事者への精神的ケアなどの必要性が高まったことや州を越えることが制限されたことで医療従事者の確保ができなくなったことである。さらに、患者増加に反した看護師不足や看護師のバーンアウトが看護の問題点として挙がっていることを学んだ。

研修を受けた学生の中に、海外で働きたいという学生もいた。日本人がオーストラリアの医療現場で働ける制度もあることを学んだが、その試験のレベルが高すぎる事は国境を越えた連携の壁となっておりとおっしゃっていた。国境を越えた医療従事者の連携がよりスムーズになれば、医療従事者の確保が進むと感じた。

(心理学科 荒山美月)

⑨観光

カランビン・ワイルドライフ自然保護区

研修2日目に、カランビン・ワイルドライフ自然保護区に行った。コアラとの記念撮影や種類豊富な動物ショー、カンガルーにエサやりなどの体験ができる。10:00 から 15:15 まで滞在していたため、その間行われた Free Flight Bird Show を多くの学生が観覧した。カンガルーとは自由に触れ合うことができ、小さなカンガルーやお腹の袋に赤ちゃんがいるカンガルーも見ることができた。



研修3日目の Free Day では、学生が各々プランを考えゴールドコーストの様々な観光地を巡った。トラムやバスを利用して、オーストラリア最大級の海洋テーマパーク、Sea World や Sea World と並んでゴールドコースト3大テーマパークといわれている Movie World、Dream World、77階の高さから360度ゴールドコーストの絶景を一望できる Sky Point 展望台などに行った。計画から実行まで学生個人の手で行ったため現地の生活に触れる機会となり、有意義な時間となった。

また、研修4日目から最終日にかけても早い時間に授業が終わることが多く、午後から観光できる時間があった。天気に恵まれている日が多く、ステイ先から近いビーチに行って泳いだり、夕日を見たり、時速80kmでビーチギリギリを疾走する Jetboat などのマリンスポーツを楽しむ学生もいた。

ゴールドコーストでは、マーケットが盛んに開催されている。サーファーズパラダイスでは、毎週水、金、日、マイアミでは毎週水、金、土、朝開催されるものから夜遅くまで開催されているものまで様々あり、放課後遊びに行くことができた。

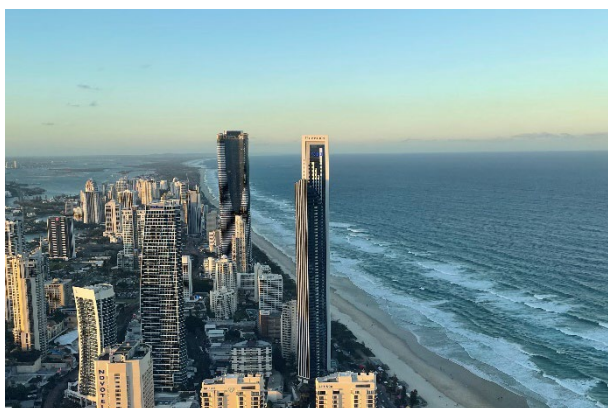
他には、ハーバータウンアウトレットショッピングセンターやパシフィックフェアショッピングセンターなど大型ショッピングセンターでショッピングを楽しむこともできた。

(医療マネジメント学科 皆川音羽)

Sea World



Sky Point 展望台



⑩文化交流（TOMODACHI HOUR、学生交流）

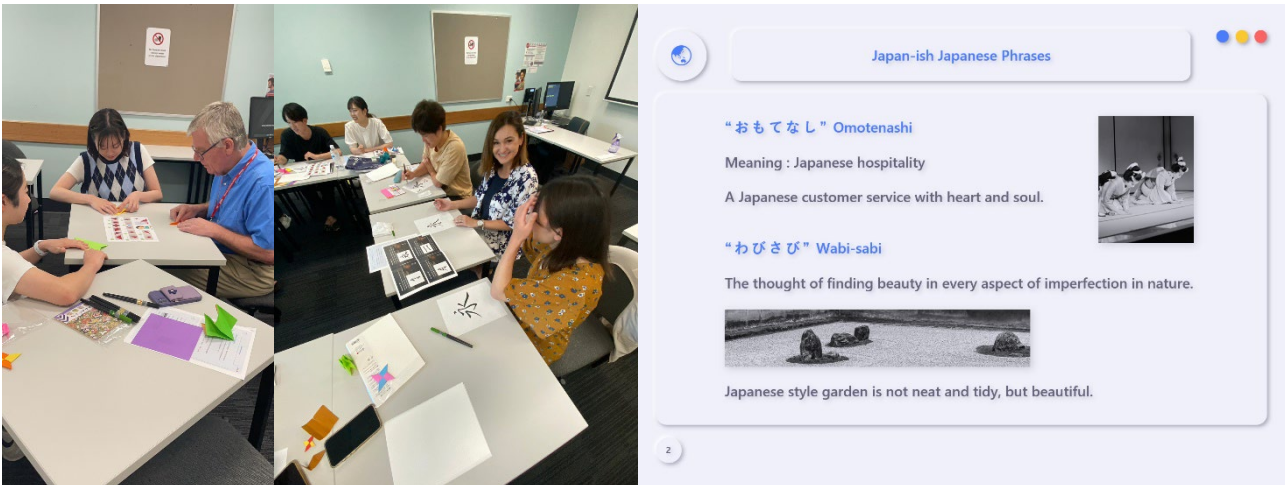
最終日において、学生が教員に対して日本の伝統文化を説明し、交流を深める TOMODACHI HOUR が行われた。渡航前にキャンパスを横断した計画・準備が行われ、折り紙体験、書道体験、日本語体験の3つを行うこととなった。参加対象者は教員2名で、学生を2グループに分け、それぞれの各教員に対し11名の学生が協力し日本文化を紹介する方式をとった。

折り紙体験では、鶴や手裏剣といった古典的な折り紙の折り方を教えるとともに、千羽鶴などの文化的な側面もパワーポイントを用いて説明することで、より深く折り紙文化について理解してもらえるような取り組みがなされた。また、複数の紙を用いるなどの高度な折り紙を作り、プレゼントとして教員に渡す様子も見られた。

書道体験では、先ず漢字について解説を行い、日本語の文字の世界について触れてもらったのちに、書道における基本である永という字を書く体験を行った。体験では、筆ペンと和紙を用いた簡易的な書道セットを用いた。また、教員の名前を漢字に変換し、書き方を教えるといったことも行われた。

日本語体験では、日本語の文法の特徴などを説明したのち、日々の生活で使う日本語や、日本特有の表現などについての体験を行った。日本特有の表現の一例として「いただきます」というものを取り上げたが、文化交流の後に行なわれた食事会において、「いただきます」などの日本語に関し、学生と教員の間での活発なコミュニケーションが見られ、より深い交流が行われた。

今回の文化交流では、伝統的な日本文化に焦点が当てられ、学生自身も日本文化に対する新たな発見があり、教員とともに日本文化を楽しむ様子が見られた。また、英語による説明を多く行ったことで、語学能力の向上にも大きく寄与する交流であった。（担当：久保田 哲郎）



左 折り紙の折り方を教員に対し説明する学生の様子。

中央 書道体験を楽しむ学生と教員。

右 日本語体験において配布した資料の一部。

⑪お世話になった人々

所属	お名前	役職
1 Griffith University	Ms. Irene	project coordinator
2 Griffith University	Ms. Tihana	Lecturer
3 Griffith University	Mr. David	Lecturer
4 Griffith University	Amir, Neethi, Noura	student (3名)
5 Gold Coast Private Hospital	Ms. Cassandra	Nurse
6 Griffith University	Ms. Tomoko Ohnuki	translator
7 Gold Coast Private Hospital	Ms. Judith	Nurse
8 Woodroffe Hotel	後藤 恵美子 様	Director/General Manager
9 Woodroffe Hotel	Yap 裕子 様	Café Supervisor
10 Woodroffe Hotel	Torok Oszkar 様	フロントデスク/夜間コール担当
11 Woodroffe Hotel	市場 英恵 様	支配人

グリフィス大学の関係者ならびに宿泊先の Woodroffe ホテル、ホームステイ先のご家族など沢山のの方々にお世話になった。また滞在中、学生各々が観光した先で親切にしてくださった現地の方々、空港やカランビン動物園までの移動に協力してくださったドライバーの方など、ここには書ききれないほどの沢山のの方々にお世話になった。

(医療マネジメント学科 皆川音羽)

⑫研修まとめ

研修内容として語学の勉強だけではなく文化交流や観光ができる時間もあり、とても充実していた。現地の人々はとても親切で、拙い英語を理解しようと耳を傾けてくれ、私たちが話の内容を理解できるように違う表現を用いて英語を話してくれていた。このような環境があったからこそ、だんだん英語が聞き取れるようになり、恐れずに英語を話すことができた。また文化の違いや医療提供における違いを感じる機会だった。文化の違いでは特に服装に関する違いを感じた。日本では、自分の体形や周りから見られることを前提とした洋服をよく着るが、オーストラリアでは肌を大きく出した洋服やワンピースが多かった。周りからどう見られるよりも、自分が何を着たいのかを重視した文化なのだと感じた。また、医療提供の違いでは、首都から離れた地域への医療提供の手段として飛行機が使われているという点である。しかし、僻地という環境が好まらず、人員不足が問題となっていることを学んだ。

このように、オーストラリアでの研修を経て、語学だけでなく、視野を広げる体験となり、コロナ禍という現状である中で貴重な経験ができた。

(心理学科 荒山美月)

海外保健福祉事情 海外研修に同行して ＝ オーストラリア グリフィス大学 ＝

新型コロナウイルス感染症の影響で中断されていた本学 海外保健福祉事情 海外研修が4年ぶりに再開された。その第一弾としてオーストラリアグリフィス大学へ2月2日(木)～11日(土)、10日間の日程で大田原、赤坂、成田の3つキャンパスから8学科22名の2年生が参加した。私自身、今回が初めての引率となり海外保健福祉事情について勉強することのできる良い機会であると捉え、そして何よりこの研修が安全にかつ充実したものとなるようなサポートができればと考えていた。

参加学生はアフターコロナ最初の海外研修で緊張した中にも国際社会に目を向けようとする広い視野を持った学生ばかりで、一人ひとりしっかりと目標をもって研修に参加していた。オーストラリアに到着して最初に感じたことは街中や見学研修した病院でマスクの着用の必要がなく3年間のコロナ禍を経てほぼパンデミック以前の生活に戻っていることであった。

現地のスケジュールも第1日目がグリフィス大学キャンパスの確認とホームステイグループのホストファミリーへの移動、2日目は学外研修、3日目が日曜日でFree dayと現地の環境に慣れることからスタートした。学外研修は2023年で75周年を迎えたカランビン・ワイルドライフ自然保護区へのエクスカージョンであった。この保護区は創設者のDr. Alex Griffithさんがロリキートに餌をあげていた事がきっかけで餌付けというアトラクションから全てが始まったとされている。

研修4日目から8日目まで午前中はSpecialized Medical English Classを2グループでオリエンテーションから課題発表まですべて英語で行われた。学生全員が課題発表のために前日は深夜までその準備をした甲斐があり立派な発表会であった。学生によるCultural presentationは日本の折り紙、書道などについて説明し、グリフィス大学の先生方には大変好評であった。見学研修はGold Coast Private Hospitalで行われ、特別講義ではオーストラリアのヘルスケアシステムについて講義を受けた後、看護学科の講義室や実習室を見学した。

キャンパスの異なる学生たちが日々、交流を深めていき同じ時間を共有していく中でお互いがお互いを理解しコミュニケーション能力を高めていたことを強く感じた。この研修に参加した学生全員が高い自己管理能力を持ち、理性的、協力的な行動、言動を保っていたことにより、大きな体調不良などは起こらず、学生全員がすべての研修プログラムを満足して受けることができた要因であると考えている。今後ともお互い情報交換をしながら切磋琢磨し、それぞれが研修の成果を広めていくことで、22名の小さな輪がさらに大きな輪へと広がっていくことを期待したい。

この研修を通して彼らが本学の輝かしい未来を創ってくれることを確信した研修であった。

最後になりましたが、時間を問わずにご対応をいただきました本学の海外研修センター、国際室、そして現地のホテルのスタッフの皆様には心から感謝を申し上げます。

成田キャンパス 保健医療学部 医学検査学科 片山 博徳
東京事務所 総務企画部/国際室 雨宮 秀行

オーストラリア
TAFE ゴールドコースト
(冬季後半)



②研修メンバー

○大田原キャンパス（3名）

・NS 学科

赤坂和香、安藤由芽、大塚真菜

○成田キャンパス（22名）

・NS 学科

岡田瑠香、古出夏妃、小堀真央、佐々木美夢、橋本優衣、山本真央

・OT 学科

田中杏奈、吉村美穂

・ST 学科

小林美優輝、藤原佳央

・RT 学科

伊藤結愛、加藤有馬、北島采海、風呂田快晴、米原裕哉

・MT 学科

伊藤優生、片岡由月妃、里優一郎、澤田翔理、廣島あずさ、深澤直也、藤田翔悟

○福岡国際（1名）

・PT 学科

日高愛子

○引率教員（2名）

成田キャンパス PT 学科 准教授 河野健一

成田キャンパス RT 学科 講師 水野直子

大田原キャンパス NS 学科 赤坂和香

③研修の目的

現地の人たちとの交流を通して、海外と日本との医療福祉事情や文化社会の違いを学び、医療人・社会人に必要な様々なスキルや意識の向上を図ることである。日本語の介入がほぼ遮られた環境で生活することは国内ではそう経験できないことであり、海外に行くことは視野を広げることや新しい発見をするきっかけになる。

また、国際医療福祉大学のカリキュラムに含まれる国際交流である。本学では、学生がどこの国へ行こうとも自立した医療の専門家として行動できるように、国際交流を通して異文化への適応力やコミュニケーション能力といったスキルを向上させる目的を持つ。

成田キャンパス MT 学科 里優一郎、澤田翔理

④研修スケジュール

2023年2月22日～3月4日

日程	午前	午後
2/22(水)		成田国際空港を出発
2/23(木)	ゴールドコースト空港到着 ホストファミリーと対面	自由時間
2/24(金)	オリエンテーション クラス分けテスト	講義(豪保健医療システム)
2/25(土)	Dream World	
2/26(日)	Free Day	
2/27(月)	英語授業	講義(豪の見どころ/文化紹介)
2/28(火)	英語授業	講義(引き継ぎ/演習)
3/1(水)	英語授業	グループ1: 講義(医療英語) グループ2: 病院見学
3/2(木)	英語授業	グループ1: 病院見学 グループ2: 講義(医療英語)
3/3(金)	講義(メンタルヘルス)	TOMODACHI HOUR TAFE 修了式
3/4(土)	ゴールドコースト空港出発	成田国際空港到着

大田原キャンパス NS 学科 岡田瑠香、古出夏妃

⑤研修国基本情報

正式名称：オーストラリア連邦 (Commonwealth of Australia)

首都：キャンベラ

言語：英語

面積：769.2万平方 km (日本の約20倍)

人口：2569万人 (2021年)

民族：アングロサクソン系等欧州系が中心。そのほかに中東系、アジア系、先住民(アボリジニ、トレス海峡諸島民)など。

宗教：主にキリスト教。さまざまな国からの移民がいるため宗教も多様。

政体：立憲君主制

元首：チャールズ三世国王陛下(英国王兼オーストラリア王)。

ただし、連邦総督が王権を代行。

首相：アンソニー・アルバニー(労働党) (2022年5月23日就任)

名目GDP：1兆3,593億米ドル (2021年4月)

主要産業：第一次産業2.6%、第二次産業26.3%、第三次産業71.1%

農林水産業(2.6%)、鉱業(10.6%)、製造業(5.9%)、建設業(7.3%)、卸売・小売業(8.6%)、運輸・通信業(6.6%)、金融・保険業(9.3%)、専門職・科学・技術サービス(7.5%)など
(2020-2021年)

在留邦人数：93,451名(2021年10月1日)

成田キャンパス NS学科 小堀真央、佐々木美夢

⑥研修地の紹介

・研修地：Queensland州 Gold Coast はオーストラリア東海岸のブリスベン都市圏の南に位置する。長い砂浜、サーフスポット、内陸運河や精巧な水路システムで有名。ドリームワールド、シーワールドなどのテーマパークがある。ラミントン国立公園では珍しい鳥や熱帯雨林がみられる。

【気候】亜熱帯性気候に属しており1年を通して温暖で過ごしやすい。四季は日本と逆。

【交通】主な移動手段はバス、トラム、電車、タクシー。中心地はバス、トラムが主流。

【治安】治安は安定しているが、観光客を狙ったスリなどの危険があるため、注意する。

【生活環境】多くのショッピングセンターがある。交通機関も整備されているため市内を歩き来するのに不便を感じることはない。

【観光地】サーファーズパラダイス・スカイポイント・ドリームワールド・世界遺産ラミントン国立公園・ショッピングセンター等



福岡国際 PT学科 日高愛子

⑦関連施設紹介

・TAFE Queensland Gold Coast (Southport, Gold Coast)

TAFEとは州立の高等職業訓練専門学校(Technical and Further Education)であり、大学と比較すると、全く異なる特徴を有する。大学では理論を学ぶ場・研究機関であることに対し、TAFEは実践的なスキルを習得できるようなカリキュラムとなっている。卒業後、即戦力と

して働ける人材育成を目的としている。コース数も数百以上と充実しており、近年では英語力のみならず、キャリアアップやキャリアチェンジを目的にオーストラリアで専門知識を習得する社会人留学生も増加している。コースは主に専門コースと語学コースが開講されており、本キャンパスでは医療系の専門コースと語学コースが中心となっている。

・Gold Coast Private Hospital

Gold Coast Private Hospital は、314 床、21 の手術室を完備する私立病院であり、世界最高水準の医療を提供している。24 時間対応の救急センター、集中治療室、がん専門外来、新生児集中治療室、リハビリセンターなどさまざまな専門分野に対応可能となっている。当院はクイーンズランド州で唯一在宅での急性期医療を提供している私立病院であり、また、ゴールドコースト初の子宮頸がん精密検査外来の他、外注の画像診断部や病理診断部、薬剤部が併設されている。チーム医療の確立により、患者は包括的なケアや治療を受けることができる。

成田キャンパス NS 学科 橋本優衣、山本真緒

⑧実習・研修(時系列)

2月24日(金) 研修1日目

TAFE Queensland にて英語のクラス分けテストを実施後、キャンパス内を見学した。キャンパス内の各部屋にベッドが設置されており、そのキャンパスに通う看護学生は各部屋をローテーションしながら様々な演習に取り組んでいることが分かった。また、座学においてメディケアなどオーストラリアの医療制度について学んだ。

2月25日(土) 研修2日目

団体での観光として Dream World で自由な時間を過ごした。乗車までの待ち時間は日本ほど長くないものが多かったため、たくさんのスリル満点な乗り物に乗ることが出来た。また、コアラとの記念撮影もでき、各々思い出に残る1日を過ごすことが出来た。

2月27日(月) 研修4日目

午前中は英語のテスト結果に基づいたクラスに分かれて英語の授業を受けた。英語での自己紹介や、英語の文法問題を一緒に解くことを通じて、様々な国の留学生との交流を深めた。午後はオーストラリアで食べた方がよい料理や観光スポットなどを質問することで TAFE Queensland の先生との交流を楽しんだ。

2月28日(火) 研修5日目

午前中は英語クラスで、文法問題を中心に留学生とともに取り組んだ。午後は、前半に座学で医療従事者間での引き継ぎ作業について学び、後半にベッドサイドでの見学をした。座学では、患者さんの情報を漏れなく適切に伝えるためには患者さんがいる状態での引き継ぎが大切であることを知った。ベッドサイドでの見学においては、身体が不自由な患者さんに

対し、特別な機械を使って車椅子へ移乗する様子が印象的だった。患者さんを支える人と機械を動かす人の2名で安全に移乗していることが分かった。

3月1日(水) 研修6日目：グループ1:医療英語 グループ2:病院見学

午前中は英語クラスで、文章問題を中心に取り組んだ。午後は2グループに分かれそれぞれ活動した。医療英語ではスマホアプリやカードを使用して関連する医療用語を結び付けるゲームに取り組み、新たな用語を身に着けることが出来た。

3月2日(木) 研修7日目：グループ1:病院見学 グループ2:医療英語

午前中は英語クラスで、文章問題を中心に取り組んだ。午後は Gold Coast Private Hospital という病院を見学した。婦人科の病室はとて広かったため、出産後の女性が安心して過ごせるお部屋となっていた。また、出産した女性に贈られるクマのぬいぐるみも魅力的だった。リハビリテーション科では自宅復帰や社会参加を目指す患者さんのための指導・訓練が行われていた。

出産後の女性に贈られるクマのぬいぐるみ



3月3日(金) 研修8日目

午前中のメンタルヘルスの講義が終了した後、TOMODACHI HOUR と修了式を実施した。TOMODACHI HOUR ではこまと書道を披露した。参加した先生やホストファミリーの方々も楽しく体験していた。修了式で修了証書を頂いた後、記念写真を撮って最後の思い出を作ることが出来た。

成田キャンパス ST 学科 小林美優輝、藤原佳央

⑨特別講義

1. Introduction to Australian Health System

1つ目はオーストラリアの医療制度、健康問題についてである。まずオーストラリアの病院は大きく分けて、プライベート病院(私立病院)と政府が運営する公立病院の2つから成り立っている。

そして、オーストラリアにはメディケアと呼ばれる国民健康保険がある。加入対象者はオーストラリアの永住権保持者、市民権保持者、永住権申請中の者である。課税所得の2%が保険料として徴収される代わりに、GP と呼ばれる一般開業医や、

公立病院での入院・治療などの医療費を全額カバーしてくれる他、私立病院での一部の医療費が補助される。1人1枚配られ、家族がいる場合は1世帯全員分の氏名が印刷される。

次に、オーストラリアの健康問題についてである。1番の問題は肥満である。肥満とは適正体重から約50kgを超えている人のことを指す。肥満は心臓病、糖尿病、精神病(うつ)などの様々な慢性病を引き起こすリスクが高まる。このようにオーストラリアでは、本来なら予防出来るはずの病気に大量のお金がかかっていることが問題視されている。



2. Clinical Handover

2つ目はClinical Handover についての講義である。Clinical Handover とは患者の経過や状況の報告、責任の引継ぎのことである。また、患者も側で一緒に参加して行うのがBedside Handover である。Clinical Handover の中でChain of communication は重要であり、この鎖が切れることによって投薬のミス、治療の遅れ、患者の転倒、手術箇所のミスなどの問題が起こる。Bedside Handover では実際に患者が包帯をしていればスタッフ同士で直接状態を確認、輸血や投薬があれば同じく注入量、残量を直接確認する。口頭だけでは伝えづらいことも目視をすることで情報が伝えやすくなる。このことから、Bedside Handover を行うことでスタッフ間の情報伝達ミスを減らし正確に引継ぎが行える。また患者に質問をしたり、説明する機会も得ることができるため安心して治療を行うことができる。長期入院している患者の場合、ベットサイドで引継ぎを行っていることを不快に思うこともあるのでその時はスタッフのみで行うこともある。これらのことから、患者中心のケアにとってBedside Handover は必要不可欠であると感じた。

3. Medical Terminology

3つ目は医学用語の講義である。医学用語は聞きなじみのない単語がほとんどだが、複数に分解することで何を表しているのか読み取ることができる。例えば“muscle heart inflammation”という単語であれば、Prefix・Root・Suffixの3つに分解することで意味が導き出せる。Prefixは日本語で接頭辞、つまり単語の先頭に付けることで特定の意味を付け加える要素であり、位置や数などを示す。ここではmuscleなので「筋肉」である。Rootは単語の軸となる要素であり、ここでは「心臓の」と訳す。最後のSuffixは日本語で接尾辞、したがって単語の最後に意味を付け加える要素であり、ここでは「炎症」を表す。この3つから「心筋炎」という訳を導き出せる。このように自ら意味を導くこともできるが、やはり現地の学生や医療従事者も全ての医学用語を覚えるのは困難だと言う。この講義で先生が私達に一番伝えたかったのは、単語を覚える重要性ではなく、わからない状態を恥じずに学び続ける姿勢を持つ大切さであると感じた。

成田キャンパス MT 学科 伊藤優生、片岡由月妃、廣嶋あずさ

⑩観光

オーストラリアの中でも人気のビーチリゾートであるゴールドコーストには、数多くの観光スポットがある。ゴールドコーストには黄金海岸という名前の通り、金色に輝く砂浜とサーファーの集まるダイナミックな波が有名である。ゴールドコーストの海岸線は約57キロメートルに及び、美しいビーチが世界各地の観光客やサーファーたちを魅了し続けている。様々なビーチが点在しているが、その中心地が「サーファーズパラダイス」である。ビーチ沿いには高層ビルやショッピング街が立ち並んでおり、カンガルーのジャッキーやUGGブーツなどのお土産を買うことができる。

毎週、水・金・日曜の夕方4時から夜9時には、「ビーチフロント・マーケット」が開かれ、120以上の屋台がオープンする。アートや古着、雑貨、音楽の生演奏などがあり、海風に吹かれながら、食事の前や後の散策を楽しむことができる。



サーファーズパラダイス 入口

オーストラリア最大級の「ドリームワールド」は1981年にオープンした人気のテーマパークである。アトラクションがある遊園地エリアとオーストラリアを代表するコアラやカンガルーなどの動物を見たり、触れ合ったりする事ができる動物園エリアを一緒に楽しむ事ができる。またコアラの抱っこ体験ができるエリアもある。絶叫マシンといえばドリームワールドと言われているが、子ども向けのアトラクションやプレイエリアもあるので家族みんなで楽しむ事ができる。動物園エリアのタイガーアイランドでは、ゴールドコーストで唯一トラを間近で見ることができ、餌やり体験をする事ができる。



ドリームワールド コアラ抱っこ体験

スカイポイント展望台はサーファーズパラダイスの中心部にあり、海拔 230 メートルの高さからゴールドコーストを一望できる展望台である。オーストラリアで 1 番高いビル Q1 にあり、世界最速のエレベーターに乗り約 43 秒で 77 階に到着する。航空写真のような 360 度のパノラマが楽しむ事ができる。朝は朝日を見ながらのブレックファースト、昼には約 57 キロメートルに及ぶ一直線のビーチ、夕方の黄昏時の夕日、夜には夜景など 1 日を通してゴールドコーストの移り変わりゆく景色を見ることができる。他にも Q1 タワーの外に出て外周を歩く、「スカイポイントクライム」など色々な楽しみ方ができる。



海拔 230 メートルからゴールドコーストを一望

成田キャンパス OT 学科 田中杏奈、吉村美穂

⑪文化交流 (TOMODACHI HOUR、学生交流)

○実施した内容

- ✓ 書道
- ✓ こま (手回しこま、投げこま)

○用意した道具

- ✓ 書道セット 10 セット (大筆、小筆、硯、半紙、文鎮、下敷き)
- ✓ こま 15 個 (投げこま 9 個、手回しこま 6 個)

○準備費用

- ✓ ¥10,586

○参加人数

- ✓ 約 40 人 (本学 30 人、現地の方約 10 人)

○実施時間

- ✓ 約 45 分間

○当日の様子

主にホストファミリーの方々と、TAFE ゴールドコーストの教員の方々に参加していただいた。全体を通して書道が非常に人気であった。現地の方の名前を漢字で書き、その作品をプレゼントした。お手本として本学の学生が書いた後、実際に現地の方々にも大筆で書道を体験してもらった。それぞれの漢字の持つ意味を英語で説明する場面もあり、英語でコミュニケーションをとる絶好の機会であった。また、ホストファミリーと初対面の人もこの TOMODACHI HOUR を通して意気投合し、充実した時間を過ごした。

また、投げこまは床面がマットであったため、従来のように回すことが困難であった。こまを実施する場合は、テーブル上で実施できる手回しこまが良いと考える。



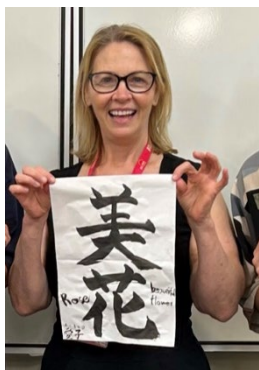
TAFEの方々と書道をした様子



書道の説明をしている様子

成田キャンパス RT 学科 加藤有馬、風呂田快晴、米原裕哉

⑫お世話になった人々



Rose 先生

TAFE Queensland Gold Coast Campus での生活を支えてくださった。



アリー先生

オーストラリアの健康管理についての授業で、オーストラリア人の平均寿命や病院の種類、精神的健康の管理について分かりやすい説明をしてくださった。



Aki さん(左)、Yumi さん (右)
オーストラリアの健康管理についての授業や、
病院見学などで通訳をしてくださった。

市場さん

Woodroffe Hotel での生活を支えてくださった。

Bronwry さん

ホームステイの管理や、空港にピックアップ、ドリームワールドのチケットの手配をして
くださった。

この方たちの他に、Campus Tour で施設説明をしてくださった先生、患者移動の方法につい
て機械を使い説明してくださった先生、Gold Coast Hospital にて施設の案内をしてくだ
された病院の方、各 English classes の先生など、多くの方々にお世話になった。

成田キャンパス RT 学科 伊藤結愛、北島采海

⑬研修まとめ (引率教員所感含む)

今回のオーストラリアの TAFE ゴールドコーストでの海外研修を 10 日間行ってみて私が
感じたことは、2つある。

1つ目は、異文化に関わる際にはその土地の文化を受け入れるべきであるということ
である。特に英会話での姿勢は変えなければならないと感じた。私は、宿泊施設の希望でホ
ムステイを選択した。そこでは当然ホストファミリーの方々と英語でコミュニケーション
を取るが、相手から話してもらうのを待つのではなく自分から相手に話しかけていく姿
勢が重要であると感じた。オーストラリアに着いて最初の方は話を聞いているだけでいた
が、徐々に自分からプライベートの話を持ち掛けたことで会話が弾み、ホストファミ
リーとの友情がより深まった。この積極的に英語でコミュニケーションを取りにいく姿
勢は TAFE での英語の授業の際にも他の国の生徒達との会話で非常に役に立った。

2つ目は、海外の医療に興味を沸かしたということである。TAFE でのオーストラリアの医療
に関する授業で、私立病院などの施設を回り日本では見る事の出来ない装置や技術を目
にしたり、オーストラリアの医療従事者の規則や仕事内容などを教わったりと普段日本に
いては知れない現地の医療を肌で感じられ、非常に良い経験となった。この授業で日本だけ

という考えにとらわれずに海外に出て医療従事者として貢献してみたいと感じた。

この2つが今回の海外研修で特に印象深く感じたことである。今後の自分の生活に活かせる多くの刺激的な体験が出来たので、オーストラリアの海外研修に参加出来たことに感謝したい。

成田キャンパス MT 学科 深澤直也

私はオーストラリアでの研修を通して自分から動くことの大切さと、医療の難しさの2つを感じた。

今回のオーストラリアでの研修は英語の授業と医療についての授業の2つの授業を体験したがどちらも英語で行った。特に英語の授業での私のクラスは最初の時間に生徒と同士でコミュニケーションをとる時間や問題を解く中でも周りの人と話し合う時間が多かった。このような時間で初日では全く自分から話すこともできなく、相手から質問されたことを答えることしかできなかつた。しかし、このままではいけないと思い自分から話しかけていくと相手も自分の事を話してくれ、授業時間外でも話すようになってくれた。これは自分から行くことでできるようになったと思うので自ら行動してどうしたいかをはっきりすることが大切なのだと感じた。

また、医療の授業では看護師の先生を招いて TAFE 内の施設や私立病院の見学、オーストラリアで働いている医療従事者の話を聞くことができた。その中でも特にオーストラリアの中心部で医療を行っている話が印象に残った。道路がない田舎での医療を行っており、そこでは十分な医療機器や設備はなくただの小屋で医療を行っていて入院が必要な患者がいたら飛行機で連れていくという国土の広いオーストラリアならではの感じる医療があった。だがそんな中でもワニやヘビなどの自然動物からの疾患や病気に迅速に確実に対応しなければいけないと仰っていた。日本ではそのような状況はとても考えにくいですが、どのような状況になってもその時に適した医療を行わなければいけないと思った。

今回の研修を通して大きくこの2つと日本とは異なる文化を感じる事ができてとても良い経験になった。

成田キャンパス MT 学科 藤田翔悟



教員所感として3点述べる。

1点目は、今回TAFEゴールドコーストに参加した全ての学生が研修期間中に体調を一切崩すことなく健康に過ごすことができたことが何よりも良かった。また、海外渡航が初めての学生が数名いたが、出入国並びにゴールドコーストでの生活において問題が起きることもなく安全に過ごすことができた。

2点目は、研修学生はすべての研修プログラムへ積極的に取り組み、英語学習、オーストラリアの保健医療制度、現地の病院見学等から多くの知見をえることができた。また、ホームステイの学生を中心に異文化交流も積極的に行い、かけがえのない経験ができたと考える。このように積極的で真面目で素直な学生たちに引率教員として何度も救われた。

最後に、TAFEゴールドコーストのスタッフ、ホームステイ関係を調整されたエージェント、滞在先のWoodroffe Hotelのスタッフ、本研修を調整してくださった本学国際室のスタッフの皆様から高いホスピタリティならびに手厚い支援を受けることができ、大変充実した研修となったことを各方面の皆様にご礼申し上げたい。

引率教員 成田保健医療学部 理学療法学科 河野健一
同 放射線・情報科学科 水野直子



2022 年度 海外保健福祉事情
海外研修・活動報告書
ベトナム ホーチミン市



1. 参加学生／引率教員

(1) 参加学生 (3 キャンパス 計 14 名)

大田原キャンパス (1 名)

<医療福祉学科> 阿部 蓮叶

小田原キャンパス (2 名)

<看護学科> 三枝 遥花、鈴木 彩華

成田キャンパス (11 名)

<看護学科> 朝倉 秋羽、菅野 菜々美、中野 沙耶、二村 雪菜、千葉 友貴乃

<理学療法学科> 宍戸 裕介

<作業療法学科> 上井 真広

<言語聴覚学科> 森 天声、和田 杏樹

<医学検査学科> 藤沼 峻太、水野 史穂

(2) 引率教員 (2 名)

大田原キャンパス 医療福祉・マネジメント学科 加藤 尚子 先生

成田キャンパス 作業療法学科 石井 清志 先生



チョーライ病院での実習終了時の様子。リハビリテーション室のセラピスト、病棟の医師、看護師の先生方にご指導頂きました。

(成田キャンパス 言語聴覚学科 森 天声)

2. 研修の目的

【看護学科】

ベトナム研修の目的、1つ目は、ベトナムの病院で見学・体験し、ベトナムの医療の実態と日本との違いを学ぶこと。2つ目は、医療者の立場を自分なりに考察するきっかけにすること。3つ目は、ベトナム学生と触れ合い異文化交流を通して医療人としての成長を得る機会に繋げること。そして、4つ目は、ベトナムの医療情勢の良い部分を日本の医療に生かされるように勉学に励むこと。(菅野菜々美)

【理学療法学科】

今回ベトナムに研修に行くにあたっての目標としては、ベトナムと日本の医療制度の違いについてやりハビリにおける治療方法の違いを見学して学ぶことを目的として研修を行う。

ベトナムは日本からも多くの支援を行っている国であるため、日本の影響を受けている部分、ベトナム独自の文化からきている部分とがあると考えられるため、見学を通じて得たことを今後の学修に活かせるように充実した研修を行う。(宍戸裕介)

【作業療法学科】

ベトナムに行くに際しての渡航目的としては、まず、ベトナムでのマナーや言語、歴史について事前に学び、又、その知識を通して実際のベトナムの生活や人間性、雰囲気を感じ取る事だった。1番はベトナムの医療制度や医療の質、リハビリの内容やリハビリの対象者について知ることだった。そして、ベトナムの医療の良い部分を日本のリハビリでも取り入れられたらと思った。(上井真広)

【言語聴覚学科】

私たちの研修の目的は、ベトナムと日本のリハビリテーション科の違いについてや、言語が違っていても、失語症や構音障害の患者さんへのアプローチの違いがみられるのかを、実際に見学して学ぶことである。また、ベトナムの病院では、どのくらいの頻度でリハビリが行われているのか、1日のスケジュールはどうなっているのかを学びたい。(森 天声)

【医学検査学科】

私たちはベトナム研修に行くにあたって、2つの目標を立てた。1つ目は、医療における日本とベトナムとの違いについて知ることである。特に検査について、どの方法を採用しているのかや、試薬の選択の仕方などに着目してそれぞれの良さや改善できそうなことを発見したい。2つ目は、ベトナム漢方などのベトナム独自で芽生えた医学について学ぶことである。ベトナムは歴史的に様々な国から影響を受けている部分や特有の自然を持っていることから日本や西洋とは異なる医学について学びたい。(水野史穂)

【医療福祉学科】

研修の目的は大きく分けて3つある。1つ目は、ベトナムの医療・福祉の現状を知り、日本と比較する。2つ目は、認知症や精神障害など日本で大きな課題とされていることがベトナムでも問題視されているのかを見てくる。3つ目は、ベトナム国民のメンタルヘルスの意識について学ぶことである。

(阿部蓮叶)

3. 研修スケジュール

(1) 研修日程

2023年2月24日（金）～3月5日（日）／10日間

(2) スケジュール

2/24（金）	移動：✈成田空港→タンソンニャット空港 宿泊先（ビクトリーホテル）チェックイン
2/25（土）	自由行動 ホーチミン市内を各自で観光等
2/26（日）	バス観光：歴史博物館、統一会堂、Viet Village Restaurant、サイゴン中央郵便局、ベンタイン市場
2/27（月）	実習：チョーライ病院 視察：国際医療福祉大学ドック健診センター
2/28（火）	実習：チョーライ病院
3/1（水）	実習：AM：チョーライ病院、修了式 実習：PM：ホーチミン医科薬科大学病院
3/2（木）	実習：ホーチミン医科薬科大学病院
3/3（金）	実習：AM：ホーチミン医科薬科大学 修了式：PM：TOMODACHI HOUR
3/4（土）	自由行動 ホーチミン市内を各自で観光
3/5（日）	宿泊先（ビクトリーホテル）チェックアウト 移動：✈タンソンニャット空港→成田空港

（成田キャンパス 言語聴覚学科 和田杏樹）

4. 研修国基本情報

- ・国名：ベトナム社会主義共和国（英語：Socialist Republic of Viet Nam）
- ・研修した都市名：ホーチミン ・人口 904 万人 ・位置 ベトナム東南部、サイゴン川の西岸
- ・時差 日本-2 時間 ・平均気温：6 月～7 月 (25.0℃～31.0℃)



ドンコイ通りの風景



ホーチミンの交通事情

ホーチミンはベトナム最大の都市である。中国に支配された歴史を持つが、町の基礎となっているのは1859年から始まるフランス統治時代。劇場や郵便局はフレンチ・コロニアルの建物である。お金はベトナムドン[VND]で、レートは1ベトナムドン[VND]=約0.005608円物価は安く、チップ制度はない。両替は現地で行った方がレートがよい。

値段表記は基本1000ドンから(1000ドン=1)、100ドン以下は四捨五入。値段交渉ができ、ベンタイン市場では値段交渉をするべき。お金がぴったりの場合、お店側が負けてくれることがある。

交通事情は、バイクでの移動が普通。徒歩で移動する習慣はなく、たくさんのバイクが道路を通っている。交通の治安はあまりよくなく、赤信号だったとしても渡ったり、クラクションを鳴らしたりしながら走っている。交通機関はタクシー、バイクタクシー、路線バス。タクシーやバイクタクシーはたくさん通っていて捕まえやすい。



国民性は、とても優しく、英語が話せる人が多かった。また写真を撮るのが好きな人が多い。日本とベトナムは親交が昔からあり、ドラえもんはみんなが知っているアニメである。日本が大好きな人が多く、日本へのリスペクトを感じる事が多かった。

タンディン教会

食事は、日本人でも食べやすいものが多く、とても美味しい。街中に屋台らしきものが所々であり、歩道で食事している人が多くいた。また、コーヒーが有名で、たくさんコーヒーショップがある。ベトナムは気温が高いため、飲み物は基本甘い。衛生状態があまりよくないため、お店以外で生野菜、水、氷は口にしない方がよい。

トイレは、トイレットペーパーが流せないところがある。

ホーチミンの有名な観光地としては、サイゴン中央郵便局、統一会堂、市民劇場などがある。

(小田原キャンパス 看護学科 三枝遥花)

5. 研修地の紹介

ホーチミンは2019年時点で人口約904万人、面積は約2,095平方キロメートルでありベトナム東南部に位置し、ハノイ市の約1,700km南にある都市である。熱帯気候で、平均気温は28℃、平均湿度は75%。5～10月が雨季、11月～3月が乾季にあたる。地形に関しては、サイゴン川の西岸にあり、南は南シナ海に面した全長20キロの海岸線となっているが中心部は海から50キロ離れている。都市部面積は140平方キロメートルで、残りは農村部となる。

行政については、ホーチミン市は中央直轄特別市（省レベルの自治体）である。地方議会としての機能を有する「人民評議会」と、地方行政機関としての機能を持ち、人民評議会の執行機関となる「人民委員会」が設置されている。人民委員会には、その業務を補佐するための各種の専門機関が置かれており、職員が各種行政事務を行っている。もともとクメール王国に属したが、北方からのベトナム人移民が定住するようになるとベトナムに併合され、1698年にザーディン府が設立された。フランス植民地支配の開始時からハノイ市と並ぶインドシナ連邦の中核都市として開発された。フランス植民地時代から1975年まで存在したベトナム共和国（南ベトナム）の時代まで同国の首都として「サイゴン」と呼ばれていたが、南北統一をきっかけにホー・チ・ミン初代国家主席にちなんで1975年に「ホーチミン市」に改名された。ホーチミンが北部のハノイと大きく異なる点は、ハノイがその歴史を通じてベトナム人の街であったのに対し、ホーチミンはクメール人、華僑・華人、ベトナム人が共存する多民族で開かれた国際的な都市であったという点である。



チョーライ病院での研修の様子

(成田キャンパス 看護学科 中野沙耶)

6. 関連施設紹介

(1) 国立チョーライ病院

1974年に日本のODA（政府開発援助）による無償資金協力で建設された。小児科・産婦人科を除く成人を対象とした総合病院で、2014年の統計では病床数1800床、外来患者数延べ約135万人/年、入院患者数延べ884,395人/年、総手術件数38,744例/年、という診療規模が巨大な病院である。

病院は国立の病院であり、保険証直轄のベトナム3大総合病院の一つで、ホーチミン市を中心とするベトナム南部地域最大の医療機関である。ベトナムの公的医療システム（リファーマルシステム）は、三層構造であり、疾患の状態に応じて適切な医療機関へと病院間で患者を紹介・搬送するシステムが存在する。しかし、各地方および、省の予算不足のため、省レベル以下の病院の多くは施設・機材が不十分で、医療従事者も質・量ともに不足している。その結果、下位レベルの医療機関の信頼性は低く、都市部の中央病院に過度に患者が集中し、問題となっている。全国の中央レベル病院の中でも、南部をカバーするホーチミン市のチョーライ病院では、病床稼働率が140%前後の状況が続いており、医療サービスの質の低下とリファーマルシステムの機能不全が課題となっている。

経験豊富で熱心な医師、看護師、スタッフ、広々とした施設と最新の設備のチームにより、質の高い医療サービスを提供することを目指している。

(2) チョーライ病院が活動を展開 専門クリニック

サービスの質を向上させ、患者の診察と治療のニーズを満たすために、2015年8月3日から、チョーライ病院は、病院の検査エリアの1階にある専門クリニックを稼働させた。クリニックは、チョーライ病院の一流の専門家によって運営されている。

(3) 国立チョーライ病院 国際医療福祉大学ドック健診センター

(HECI: Health Evaluation and Promotion Center, CRH-IUHW)

国際医療福祉大学ではアジア諸国における国際医療協力の最重点国としてベトナムを位置づけ、20年以上にわたりチョーライ病院との間で医療人材の交流を進めてきた。2018年9月、チョーライ病院と国際医療福祉大学の共同事業として、ホーチミン市内にチョーライ病院隣接の日本式人間ドックサービスを提供する健診施設を開設した。ホーチミンに居ながら、日本式の快適な環境で高品質の人間ドックサービスを提供するのが特徴となっている。人間ドック・健康診断部門の専門施設「山王メディカルセンター」の名誉院長である天野隆弘医師をはじめ、著名人が利用することで有名な東京の「山王病院」や、国際医療福祉大学三田病院に所属する多数の医師の指導のもと、日本式ドックの研修を受けたチョーライ病院の医療スタッフが、高品質でホスピタリティあふれるドック・健診サービスを提供している。

さらに、最高水準の日本製医療検査機器による正確な診断も特徴として挙げられる。キヤノンメディカルシステムズをはじめとする日本の医療機器メーカーの協力のもと、最新鋭の日本製医療検査機器による正確な診断を行うことが可能となっている。加えて、日本国内のIUHW関連施設によるダブルチェック体制が整備されており、CT・MRIなど放射線・画像検査および病理検査の必要が発生した場合は、日本国内にある国際医療福祉大学三田病院や、国際医療福祉大学の成田キャンパス医学部の遠隔画像診断センターと専用のインターネット回線で接続し、日本人の放射線科医と病理医によるダブルチェックを行っている。

プラチナコースの人間ドック健診メニューは、頭部MRI/MRA、上腹部MRI、DWIBS(近年日本でも導入され始めたMRI全身がんチェック)など、がんの早期発見・予防に役立つ検査項目が追加され、脳卒中や心血管疾患のリスク(危険因子)を検出する。

(4) ホーチミン医科薬科大学病院 UNIVERSITY MEDICAL CENTER (UMC)

ホーチミン市にある国立の医科大学で、ベトナムで最も高く評価されている医学と薬学の大学の一つである。大学には7つの学部と1つの附属病院がある。もともとホーチミン医科薬科大学は、1974年にフランスの植民地時代にフランス領インドシナによって設立され、サイゴン大学に所属する医学学校だった。2005年、大学は国の2つの戦略的な医療教育機関の一つとして認定され、大学病院は650床となり、近代的な教育・研究設備が充実している。

診療科は消化器内科、呼吸器内科、耳鼻科、直腸肛門科、泌尿器科、内分泌科、神経外科、整形外科、循環器科、血管外科などがある。

病室には家族が寝泊りできるように付き添い者用のベットが設置されていた。

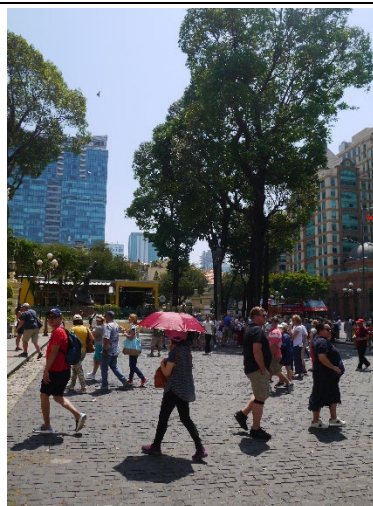


TOMODACHI HOUR の写真：現地の大学生と交流することが出来ました。

(成田キャンパス 看護学科 二村雪菜)

7. 実習・研修について

2月24日(金)	移動	成田空港からホーチミンシティ・タン・ソン・ニャット国際空港に移動
2月25日(土)	自由行動	各自でホーチミン市内の観光
2月26日(日)	自由行動	全員でバス観光
2月27日(月)	研修	<p>チョーライ病院にて研修</p> <p>8:00-11:00 病院説明 病院スピーチ 引率教員スピーチ 写真撮影 内部見学(救急外来、リハビリテーション室、 医学検査部門、放射線部門)</p> <p>13:30-16:00 各診療科にて研修：社会福祉部門、耳鼻科、 リハビリテーション科、微生物部門</p>
2月28日(火)	研修	8:00-16:00 各診療科にて研修
3月1日(水)	研修	<p>8:00-10:00 各診療科にて研修</p> <p>10:00-11:00 質疑応答、チョーライ病院での研修修了式</p> <p>14:30-15:00 ホーチミン医科薬科大学病院での研修</p> <p>15:00-16:00 見学：ICU、消化器外科、リハビリテーション科</p>
3月2日(木)	研修	9:00-16:00 研修：ICU、消化器外科、リハビリテーション科
3月3日(金)	研修	<p>9:00-11:00 放射線科、内分泌科</p> <p>13:30-16:00 修了式、TOMODACHI HOUR</p>
3月4日(土)	自由行動	各自でホーチミン市内の観光
3月5日(日)	移動	ホーチミンシティ・タン・ソン・ニャット国際空港から成田空港に移動



ホーチミン市内の様子：日中は30℃近くになり、日本とは逆の気候でした。

(成田キャンパス 作業療法学科 上井真広)

(成田キャンパス 看護学科 中野沙耶)

8. 観光

(1) タンディン教会

タンディン教会はホーチミンで2番目に大きな教会である。ピンクの外観が印象的でフォトスポットとしても人気が高い。ミサが行われている時間には観光客も中に入ることができる。夜はライトアップされまた違った魅力を感じられる。

(2) 中央郵便局

鮮やかな黄色が特徴的なこの中央郵便局はドンコイ通りに位置しており、フランス統治時代を感じさせる名建築として有名な観光スポット。郵便局の内部にはベトナムの国民的英雄であるホー・チ・ミンの大きな肖像画が掲げられている。実際に郵便局としても機能しているため、絵葉書を購入し自分や家族宛に手紙を送ることも可能である。お土産コーナーもあり、宝石やキーホルダー、絵葉書など品揃えがよかった。

(3) 戦争証跡博物館

戦争証跡博物館では、ベトナム戦争に関する研究、収集、保管、展示を行っている。まず、この戦争の始まりは南北それぞれに成立した政府による統治争いであり、1960年に北部による「南ベトナム民族解放戦線」が表明されたことで、本格的に紛争化した。そしてその後、米軍が南部に、次いでソ連軍が北部に介入したことにより激化し、南北の対立が資本主義陣営と社会主義陣営の代理戦争となったのである。館内では、戦時中の兵士や一般市民の姿を写した展示を見ることができる。現在は閉鎖中であったが、米軍の捕虜収容施設を再現した場所もあり、実際の環境や設備を知ることができるようだ。なかでも目を引くのは、枯葉剤など米軍の化学兵器による被害を取り上げた展示である。枯葉剤に含まれる有害物質・ダイオキシンにより、散布された地域の住民や土壌は汚染され、それにより死産や流産の増加、奇形児の出生率の上昇が起きた。散布から半世紀が経った現在でも影響は色濃く残り、人々を苦しめている。展示では、誕生した奇形児とその予後、曝露した兵士の症状、荒廃した森林の写真を見ることができる。戦争証跡博物館には、日本人カメラマンが撮影した写真や手記も展示されており、その惨さをより強く感じた。その他の展示にも英語表記がなされ、ベトナム語がわからなくても全く問題がない。何よりも写真の衝撃が大きく、知識としてしか知らなかったベトナム戦争の実際を学ぶことができた。



タンディン教会



中央郵便局



戦争証跡博物館

(大田原キャンパス 医療福祉・マネジメント学科 阿部蓮叶)
(成田キャンパス 看護学科 千葉友貴乃)

9. 文化交流 (TOMODACHI HOUR, 学生交流)

今回の研修では、ホーチミン医科薬科大学で TOMODACHI HOUR を行った。会場には研修でお世話になった各施設の方々に加え、ホーチミン医科薬科大学の学生が 30 人ほど参加していた。最初に、病院研修を終えたことを表彰していただき、その後、ホーチミン医科薬科大学の学生と研修参加者による交流を行った。ホーチミン医科薬科大学の学生からは、ベトナムの歌と伝統的な踊りと遊びを体験することができた。私たち研修参加者は、歌、けん玉、コマ、折り紙、お手玉といった日本の遊びを紹介し、自由に体験してもらった。日本の歌を披露した際に、ベトナムでよく知られたものであったため、現地の学生と一緒に盛り上がる事ができた。同じ医療職を目指すベトナムの学生と交流し、日本との文化の違いを知ることができ、良い刺激となった。



ホーチミン医科薬科大学での修了式と TOMODACHI HOUR と様子。ベトナムからはダンスと歌、伝統のゲームが披露された。日本からは歌、伝統的な遊び（お手玉、けん玉、折り紙）を一緒に行った。

(成田キャンパス 医学検査学科 藤沼 峻太)

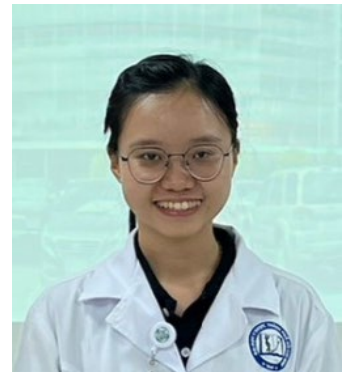
10. 研修中にお世話になった方々

(1) タオさん／観光ガイドさん

到着時と帰国時の空港の行き帰り、2日目のバス観光のガイドを務めて頂いた。とても気さくな方で日本語を話すことができ、ベトナムでの注意事項や生活するのに必要なことを教えていただいた。2日目の観光ではいくつかの観光名所をまわり、主に歴史や文化について説明していただいた。その中でも歴史博物館でのベトナムの歴史における中国との関係や独自に築いてきた文化について話がとても印象的だった。また、行きたいところなどを聞くとおすすめの場所を教えていただいた。

(2) Ms. Tranggさん／ホーチミン医科薬科大学の学生

臨床検査技師を目指して、チョーライ病院でインターン実習中の大学生。同年代ということで、病院以外の大学についてやベトナムでのおすすめの食べ物など様々なことを話すことができた。しんちゃんと藤が好きな方である。



チョーライ病院の研修では主に微生物について教えていただき、実際に本物の細菌を見せていただいたことや染色などを体験することができた。その他の免疫や医動物、血液検査についても説明していただいた。また、検査における日本とベトナムでの違いについてお互いに情報交換ができ、中でも微生物で日本の百日咳といった和名の呼び方がベトナム語でも独自にあったことが印象的だった。

(3) チョーライ病院の看護師や医師の皆様

看護学科の病棟実習は主に国際医療福祉大学大田原キャンパス看護学科の卒業生の看護師さん、Ms. Hien がして下さいました。日本語でのやりとりが可能であったため、ベトナム語を日本語に訳してくださったり、日本語での説明をして下さいました。また、その他の看護師や医師の方々も暖かく私達を迎えて下さいました。実際に実技を見させて頂くなどの貴重な経験もでき、とても勉強になった。

(4) ホーチミン医科薬科大学のスタッフの皆様

UMC では病院内を視察させて頂いた。病院内の各場所で看護師や理学療法士の方々に丁寧に説明して頂いた。

(5) TOMODACHI HOURで仲良くなったホーチミン医科薬科大学の学生の皆さん

ホーチミン医科薬科大学の学生の方々と交流をしました。ベトナムの文化などに触れることができた。暖かく迎えて下さり、充実した時間を過ごすことができた。

(成田キャンパス 医学検査学科 水野史穂)

(小田原キャンパス 看護学科 鈴木彩華)

11. ベトナム・ホーチミン研修のまとめ

(1) 研修に参加して感じたこと

ベトナムでの 10 日間の研修では、日本と異なる医療事情を知ることができ、大変有意義な時間となった。

ベトナムで行われている治療は日本と大きくは変わらないが、医療環境が病院により異なる。今回の研修で見学させて頂いたチョーライ病院ではベトナム全土から、様々な疾患の治療のために患者が来院しており、入院/外来ともに患者数が非常に多く、病棟の廊下にまでベッドが並べられている状況であった。その後に見学したホーチミン医科薬科大学病院（UMC）では外来患者数が多いが、入院患者は病床数と同じ人数が入院していた。これはチョーライ病院と UMC で入院費用が大きく異なるためとのことだった。

ベトナムの学生との交流は時間が少なかったが、お互いの文化に触れることによって交流を深めた。言語の壁があるものの、伝わらないときは身振りを使ったりしてコミュニケーションを取っていった。今回のこの経験は今後の学修や臨床現場に出た時に役立つと思う。

(成田保健医療学部 理学療法学科 宍戸裕介)

(2) 引率教員所感

海外保健福祉事情（研修）は COVID-19 の影響により中止となっていたが、今回、希望した学生のみを対象に実施することが出来たが、現地に行く事の素晴らしさを感じる事が出来た研修であった。

ベトナム/ホーチミン市と本学との友好関係は非常に長く、今回の研修では、2018 年に設立された国立チョーライ病院 国際医療福祉大学ドック健診センター（HECI: Health Evaluation and Promotion Center, CRH-IUHW）にも視察に訪れることができ、参加した学生は日本と海外との違いや共通点を経験として学ぶことが出来たのではないだろうか。

ホーチミン市は人口約 900 万人の大都市であるが、今回、研修させて頂いたチョーライ病院とホーチミン医科薬科大学は都市部だけではなく、ベトナム南部の地方からの患者も受け入れており毎日多くの患者がベトナム各地から来院していた。そのような施設で実習させて頂き、学生たちは病院での医療だけではなく、それらを取りまく保健・医療制度、交通や水道などのインフラといった人の生活そのものに目を向ける事の重要性を知ることが出来たのではないだろうか。

最後に直前まで実習等など各学科の忙しいスケジュールの中でも、感染予防や研修中の安全管理、帰国後の報告書作成などに協力して臨んでくれた参加学生の皆さん、研修でお世話になった皆様に感謝申し上げます。

(成田保健医療学部 作業療法学科 石井清志)



シンガポール NYP 冬 (後半)



(ナンヤン・ポリテクニク)



(赤坂キャンパス PSY 瀧木日菜葵)

【参加学生名簿】

大田原	PT	松下凜子
	OT	安藤菜捺美
	OT	叶谷優佳
	SHM	齋藤優奈

成田	NS	伊藤しおん
	NS	山口萌咲
	ST	菊池加奈
	ST	田中愛海

赤坂	PSY	澁木日茉葵
	PSY	中野晴香
	HM	井上このみ

福岡国際	PT	新田優衣
	PT	松岡瑠理
	PT	宮野亜美
	OT	浜辺隆平

担当教員：牧原由紀子（成田）、鶴澤寛伸（成田）

（大田原キャンパス SHM 齋藤優奈）

【研修の目的（キャンパス別）】

大田原キャンパス

保健医療学部理学療法学科 2年 松下凜子

シンガポールと日本の医療・福祉事情、文化の違いを実際に現地へ赴き、学習することを一つの目的とした。そして得た知識や経験したことをまとめ、帰国後に行われる報告会で伝える。また、現地の方とコミュニケーションを図り、異文化への理解を深めることも目的の一つである。今回の経験を応用し、将来医療従事者に携わる身として良い経験に繋がればよい。

成田キャンパス

成田保健医療学部言語聴覚学科2年 菊池加奈

海外の文化や保健福祉事情を実際に見て、考え、行動することで自身の今後の学習に生かすことを最終的な目的に掲げ、今回の海外研修に参加した。また、現地の学生や先生とのコミュニケーションを通して自身の英語力を図ることも目的であった。さらに、帰国後の学習の姿勢や、自身の専門職への興味の深まり等の良い変化をもたらすことも目的の一つであった。

東京赤坂キャンパス

赤坂心理・医療福祉マネジメント学部心理学科2年 中野晴香

今回私たちはシンガポールで日本とは異なる文化や言語に触れ、積極的に交流を深めることを目的とした。また、シンガポールでの医療福祉事情について知り、日本との違いを学ぶことや、普段はなかなか触れることのない看護やリハビリの分野についての理解を深めることを目標とした。

福岡キャンパス

福岡医療学部理学療法学科2年 新田優衣

今回のシンガポール研修の目的は2つある。1つ目はシンガポールの医療制度やNYPのカリキュラムを学ぶことだ。実際に見たり聞いたりすることでいろんな視点で学ぶ。2つ目は現地の方との交流である。やはり日本で生活していると外国の方との関わりが少ないのでこの研修を通して、NYPの学生や先生、お店の店員さんと英語でコミュニケーションをとる。主にこの2つを目的として、研修を行っていく。

(大田原キャンパス PT 松下凜子)

【研修スケジュール】 (2023年 2月28日～3月6日)

2/28(火)		シンガポール入国
3/1(水)	10:10-10:30	オリエンテーション、大学紹介
	10:30-12:00	シンガポールの紹介
	12:00-13:30	NYPの生徒と一緒に食堂で昼食
	14:00-17:00	SHSS ツアー
3/2(木)	10:00-12:00	シミュレーションルームでの体験学習
	<u>12:00-14:00</u>	NYPの生徒と一緒に食堂で昼食
	15:00-17:00	St Hilda's Community Services を訪問
3/3(金)	9:30-11:30	KYDZ を訪問、体験学習
	12:00-14:00	NYPに戻りみんなで昼食

	14:00-16:00	修了証明書の授与、文化交流
3/4(土)		自由行動
3/5(日)	10:00-14:00	市内観光
		シンガポール出国

(福岡キャンパス PT 松岡瑠理)

【研修国基情報】

- (1) 正式名称：シンガポール共和国 (Republic of Singapore)
- (2) 政体：立憲共和制
- (3) 元首：ハリマ・ヤコブ現大統領
- (4) 首都：なし
- (5) 面積：約 720 km²
- (6) 人口：約 545 万人
- (7) 名目 GDP：3970 億ドル(2021 年)
- (8) 主要産業：製造業(エレクトロニクス、化学関連、バイオメディカル、輸送機械、精密機械)、商業、ビジネスサービス、運輸・通信業、金融サービス業
- (9) 民族：中華系 76%、マレー系 15%、インド系 7.5%
- (10) 言語：国語はマレー語。公用語として英語、中国語、マレー語、タミール語
- (11) 宗教：仏教約 43%、イスラム教約 15%、キリスト教約 15%、道教約 9%、ヒンドゥー教約 4%
- (12) 略史：1400 年頃、現在のシンガポール領域にマラッカ帝国建国。1511 年、マラッカ帝国がポルトガルに占領され、マラッカ帝国滅亡。1819 年、英国人トーマス・ラッフルズが上陸。1824 年、英国の植民地となる。1942 ~ 1945 年日本軍による占領。1959 年、英国より自治権を獲得、シンガポール自治州となる。1963 年、マレーシア成立に伴い、その一州として参加。1965 年、マレーシアより分離、シンガポール共和国として独立。



(成田キャンパス ST 田中愛海)

【研修地の紹介】

シンガポールには 4 つの大学、4 つのポリテクニクがありその一つがこのナンヤン・ポリテクニク (NYP : Nanyang Polytechnic) である。1992 年に設立された 3 年制の国立専門学校で、7 つの学科を持つ。日本でいうと高等専門学校的な存在である。学生数は約 15,000 名であり 17 歳から 20 歳前後までの学生が 3 年間学び、卒業後は大学に進学する学生もいれば就職する学生もいる。また仕事をしながらスキル向上のために学びに来る学生もいる。部活動も盛んに行なわれており、国内はもちろん国際の大会でも賞を受賞している生徒が数多くいる。敷地は 305,000 m² (3,280,000 平方フィート) でありサッカー場約 60 個分の大きさである。図書館はとても広く多くの椅子と机があり自習スペースも充実している。研究所では物作りや分析、先端技術を駆使した研究が行われている。実習室には幼児、病人、負傷者など様々な種類の患者の模型があり、中には言葉を掛けると返事ができる特殊なタイプのものもあり、臨床現場に近い状態で学ぶことができる。グラウンド、体育館、スイミングプールはどれも大きく広く、部活の選手にとっては、とても良い環境で競技に勤しむことができる。その他にも、食堂は複数ありそれぞれ豊富な種類の店が立ち並んでおり様々な料理を楽しむことができる。廊下や壁にはユニークな絵画や作品が至る所に展示されており、とても彩りがある。



(ナンヤン・ポリテクニクの外観)

(福岡キャンパス OT 浜辺隆平)

【関連施設紹介】

St Hilda's Community Service Centre

1999年に発足し、2002年に施設が設立されたコミュニティーサービスセンターである。対象となる人々は、高齢者や障がい者、一人暮らしの方である。医療サポートや訪問サービスを提供している。施設内には、様々な器具や設備があり、落ち着いた雰囲気であった。

KYDZ International

2005年からある教育玩具の会社である。対象となる人々は、幼児教育者、高齢者の介護者、就学前児童の保護者である。施設内には、多くの玩具があり、実際にお話を聞いて、玩具に触る体験もさせていただ

た。例えば、水を含ませた筆でなぞると色が浮き出る塗り絵や、様々な触覚の飾りが付いているエプロン等を実際に触って体験した。

(成田キャンパス ST 菊池加奈)

【実習・研修】

3月2日(木) 研修3日目

・NYP シミュレーションセンター

私たちは看護のシミュレーションを体験した。シナリオが与えられ、それに対しての2人の看護師役が看護を実践した。病室を再現した部屋には実際に胸の音を聞くことができる人形やモニターなどの設備があり、マジックミラーで外からほかの学生が見学できるようになっている。実際の授業では教員が1か月かけてシナリオを考え、学生はそれに対してどのような看護を行うかを決めたとうえで最後にシミュレーションを行う。シミュレーション後に行う報告会では実習をした人だけでなく見ていた人も考え、発表することで視野が広がることや、間違えていても責めずになぜそのような行動をとったのか考えることで次に生かすというお話がとても印象的であった。

(赤坂キャンパス PSY 中野晴香)

・St Hilda's Community Service Centre

NS3人、PT2人、OT2人、ST1人で構成されている。

利用する方の約31%が介護を必要としている。年齢を重ねるにつれ様々な弊害を伴うため、施設スタッフによる介入が重要となる。この施設では、歌やゲーム、ガーデニングや筋力トレーニング等を行うことで、活動の幅を広げている。また、歩行を再教育するロボットの使用や自宅を想定した部屋の使用によりADLの低下を予防する。ロボットは精密な動きであり、初めて見る私たちにとって驚きは大きいものだった。

(成田キャンパス NS 伊藤しおん)

3月3日(金) 研修4日目

・KYDZ International

実際に知育玩具に触れながらお話を伺った。子どもだけでなく機能が衰えてきた高齢者の方も使用することや、おもちゃがどのような目的で作られたのかを使用させる人がしっかりと理解をしていなければならないことを知った。また、どんな状態の人にどれほどの難易度のものを渡すか、どのような順番で渡すかということを知り、しっかりと見極めることが大切である。そのうえでより興味を持って取り組んでもらうために使用

する人のバックグラウンドを知ることが大切であることを学んだ。さらに、おもちゃを通して会話をすることで昔のことを思い出してもらいなどし、認知機能を保つという一面もあることを学んだ。

(赤坂キャンパス PSY 中野晴香)

「シンガポールの概要、NYP の紹介」：3月1日（水）研修2日目担当：Chow Soot Wee 先生

シンガポールは日本と同様、高齢化が進行しており、2021年の平均寿命は男性 81.1 歳、女性 85.9 歳となっている。そして高齢化に伴い、認知症患者が増加している。また、乳児の死亡率は低いものの、年々出生率は減少中で 2021 年は 1.12/年であった。しかし辰年は自分の子どもが強い子に育ててほしいという親の願いから出生率が上昇する傾向がみられる。

シンガポールに住む人々の健康状態について、がんの部位別罹患率を見ると、男性は直腸（大腸）がん 38.2%、肺癌 32.6%、女性は乳がん 69.8%、大腸がん 27.2%という結果になっており、高血圧、喫煙率も高いとされていることから、生活習慣病が問題視される。このような生活習慣病を予防する目的から、たばこ税を増税するといった国を挙げて行っている対策や、個人でジムに通うことなどのセルフケアも重要視されている。

NYP は 1992 年 4 月に設立し、現在 6 学部で 12815 人の学生、1370 人のスタッフがいる。

School of Health & Social Sciences は看護学科、口腔衛生科、ソーシャルワーク科がある。看護学科では実践的なカリキュラムが多く、Paramedicine ではレベル1 軍隊、レベル2 救急、レベル 3, 4 は、よりスキルを高めたい人が受講し対象別の看護を学ぶことが可能である。シミュレーションシステム、事前録画視聴、少人数グループでのディスカッションといった学生主体の学習方法となっている。クラブ活動も盛んで、80 を超えるクラブがあり、学生間交流が多い。

(成田キャンパス NS 山口萌咲)

【特別講義】

「シンガポールの社会福祉制度」：3月1日（水）研修2日目担当：Diana Wee 先生

シンガポール政府によって、Medisave、Medishield、Medifound、(3Ms) という医療制度がとられている。Medisave は、CPF（中央積立基金）という強制積立金制度である。全ての被雇用者に適用され、医療口座に積み立てられた積立金を本人やその家族の医療費の一部に充てる事が出来る。Medishield は、Medisave の加入者すべてが原則として加入する重病医療費保険制度である。国が指定した重病など、稀な状況でしか適用できないため保険金自体は安い。Medifound は、政府が出資して立ち上げた医療基金である。主な目的は Medisave や Medishield を使用しても医療費が払えない低所得者への支援である。

シンガポールの公立病院では、病院にかかった保険料が分かれている。A では自己負担額は 0%、B+は 20%、B2+は 50%、B2 は 65%、C は 80%である。自己負担を増やすことで病院にかかる優先順位を上げたり、高い質の医療を受けることができる。

講義から、シンガポールの医療制度について知ることができ、日本との医療制度の違いについても学ぶことが出来た。

(大田原キャンパス OT 叶谷優佳)

【観光】

・セントーサ島とナイトショー 3月4日(土)研修5日目

セントーサ島へはモノレールやケーブルカーでも行けるが、私たちはバスで島まで行った。観光地として有名なセントーサ島には USS をはじめ、アドベンチャーパーク、ウォーターパーク、パラワンビーチ、レゴショップなどと多くの観光地がある。私たちは時間も限られていたため USS に行った。日本の USJ と比べると小さく、雨ということもあって、いろいろなアトラクションに乗れた。日本とはまた違ったアトラクションが多々あり、十分満足できた。帰りは歩いて帰った。15~20 分ほどで最寄りの駅に着くので交通アクセスは良いと思う。

夜はマリーナベイサンズの前で行われる“光と水のシンフォニー”を見た。ここを見る際にお金は必要なく、誰でも見ることができる。上映時間は13分間でどこから見ても神秘的で見応えのあるナイトショーであった。



USS(ユニバーサルスタジオシンガポール)

ナイトショー

・バス観光 3月5日(日)研修6日目

研修 6 日目に全員でシンガポール観光をした。バスガイドのキーさんが色々な解説しながらシンガポールの街を紹介してくれた。シンガポールに植物が多い理由は、多くの観光客にきてもらえるようにと街に緑を多くしたそうだ。

最初にラッフルズ上陸記念の地に行き、歩いてマーライオン公園まで行った。そこには観光客のひとがたくさんいて、多くの人はマーライオンをバックにして色々な写真を撮っていた。マーライオン公園の近くにはアイス屋さんやセブンイレブンがあった。写真を撮っていたらスクールが降ってきた。そのままバスに乗り、ガーデンズ・バイ・ザ・ベイに行った。たくさんの植物が植えられており、とても綺麗で、室内はとても寒かった。また映画“アバター”の世界観を再現した空間もありものすごく神秘的だった。色々と回った後、Royal Kublai Kahn で昼食をとりお土産を買った。



ラッフルズ上陸記念の地



マーライオン公園



ガーデンズ・バイ・ザ・ベイ



(福岡キャンパス PT 新田優衣)

【文化交流】

3月3日（金）研修4日目

● シンガポールの伝統的な遊び

4日目の午後は、NYPの学生から、シンガポールの伝統的な遊びを教わった。それぞれのキャンパスでグループごとに分かれた後、一つの教室内で、ローテーションをしながら5つの遊びを体験した。

初めて体験する遊びがほとんどで、各遊びの担当の学生が、ルール説明や遊び方を実際に見せながら教えてくれた。

お手玉やこまなどのような、日本と似た遊びもあったが、ビー玉を使った頭を使うゲームやスティックを使った単純な遊びもあり、シンガポールならではの体験ができ、とても楽しかった。

● TOMODACHI HOUR

シンガポールの伝統的な遊びを教わった後、日本の学生の番となり、TOMODACHI HOURを開始した。福岡キャンパスは紙飛行機、赤坂キャンパスはお手玉とけん玉、成田キャンパスはあやとり、大田原キャンパスは折り

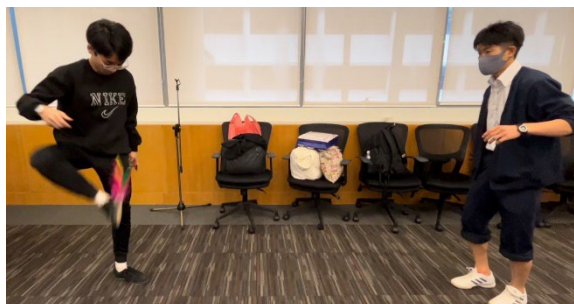
紙のように、キャンパスごとに4つのグループに分かれ、NYPの学生にローテーションしてもらいながら、日本の伝統的な遊びを紹介した。

福岡キャンパスの担当は紙飛行であったため、準備として、紙飛行機の作り方を英語でまとめたものを種類別で用意し、ギネス記録をとったもの、スタンダードなものなど、様々な飛行機のモデルをあらかじめ作っておいた。

NYPの学生に好きな紙飛行機を作ってもらった後、実際に廊下で飛ばしてもらった。私達は英語で飛ばし方のコツを説明したり、飛ばして見せたりした。

学生は、飛ばすのに悪戦苦闘していたが、真っ直ぐ飛ばせた時には、私達も「Nice!」や「Good!」など、声をかけた。

NYPの学生は、何度も飛ばしてみても、楽しんでくれたようで、私達も一緒に楽しめたため、良い思い出となった。



(福岡キャンパス PT 宮野亜美)

【お世話になった方々】

Chow Soot Mee 先生

3月1日午前に行われた、Singapore Health System の講義を担当された。シンガポールの特徴や、日本の医療制度との違いなどを、丁寧にわかりやすく教えていただいた。休憩時間には、明るく私達を和ませてくださった。

Hari Silvarajoo 先生

3月1日午後に行われた、Tour of NYP and SHSS を担当された。キャンパスはとても広かったが、短時間でたくさん施設を紹介してくださった。3月2日午後に行われた、St Hilda's Community Service Centre の見学の際もサポートしていただいた。

Emily Kwan 先生

3月2日午前に行われた、Simulation Based Learning を担当された。学生が実際に行っている実習の流れを教えてください、私達も体験することができた。日々進歩する医療に対応できる人材を育成する環境が整っていた。

Carrie Chan 先生、Woo Pei San 先生

3月3日午前に行われた、KYDZ International の見学を担当された。様々な玩具の紹介や、提供する側が意識すべきことなどを教えていただいた。患者さんや利用者の立場になって考えることの大切さを改めて学んだ。

(赤坂キャンパス HM 井上このみ)

【研修まとめ】

今回の研修で訪れた NYP(ナンヤンポリテクニク)では、日本の実習ではあまり見られないシミュレーションシステムを使った現場に近い実習形態を見学することができた。対象者の訴えに対してどのような対応をしなければいけないのかなど、その場で考えないといけないようなことを実習の場で体験しておくことができるということは現場に出た際の対応の一つとして自分のものにしておけるという強みになると感じた。

KYDZ International という福祉用具等を作っている会社では水だけを使ってできる塗り絵や、片麻痺の対象者が紐を縛ったり、ボタンを締めたりする練習ができる器具などを実際に触ってみることができた。1つの器具で様々な使い方ができるような工夫がなされていて、いろいろな人に使えるように作られているのだと感じた。おもちゃとして販売されているものが多く、誰でも、気軽に使えるような簡単なつくりになっているという特徴が見られた。

NYP の学生とは TOMODACHI HOUR を通じて仲を深めることができた。言葉が通じない中でもジェスチャー等を使って意思表示をすることで何となく理解でき、会話することができた。言葉が通じなかったとしても、相手に伝えるという気持ちがあれば会話は成立するというのを身をもって体験することができた。今後の生活に活かしていける学びを多く手に入れることができた研修だった。

(大田原キャンパス OT 安藤菜捺美)

<引率教員所感>

長引くコロナ禍で多くの我慢を強いられてきた学生たちが、ようやく羽を伸ばし若者らしさを発揮している姿を見ることができ、引率教員としても感慨深い研修となった。渡航が決定してから実際の研修までの時間が短く、十分な準備ができないまま参加することになったが、受け入れ先の方々は丁寧にシンガポールの医療福祉について説明してくださり、理解を深めることができた。シンガポールと日本の医療福祉について、それぞれの長所や短所、共通点や相違点を経験することができ、今後医療人として社会に出る学生たちにとって視野を広げる絶好の機会であったように思う。また言語の壁を乗り越えるためには、完璧な英語を話す必要はなく、コミュニケーションを取りたいという気持ちがまずは大事であることを実体験でき、シンガポールの学生たちと今後も続く友情を育むことができたようだ。最後に、コロナの影響がまだゼロにはならない時期に研修を企画し、実現させてくださった全ての方に深く感謝致します。ありがとうございました。

(引率教員 成田キャンパス理学療法学科 牧原由紀子)



国際医療福祉大学
INTERNATIONAL UNIVERSITY OF HEALTH AND WELFARE